

会 議 録

会議の名称		第一回放課後の在り方検討会		
開催日時		令和 8 年（2026 年） 7 月 21 日 開会 14：00 閉会 15：30		
開催場所		つくば市役所 コミュニティ棟 1 階 会議室 1		
事務局（担当課）		こども・保健部 こども育成課		
出席者	委員	小村 政文 委員（会長）、柳下 英子 委員 和泉 なおこ 委員、丹間 康仁 委員 有坂 絢子 委員、飯塚 康弘 委員（副会長）		
	その他			
	事務局	鈴木 加代子こども・保健部長、岩田 光弘こども・保健部 次長、勝村 英樹教育局次長、小林 将明こども育成課長、 谷内 俊明児童館統括監、飯村 由紀子こども育成課長補 佐、飯野 昌典係長、渡辺 典江係長		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	1 人
非公開の場合はその理由				
議題		・つくば市の小学生に対する放課後の事業・現状について ・次回以降の開催予定について		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第第	1 開会 2 副市長挨拶 3 「放課後の在り方検討会」趣旨等 事務局説明 4 委員紹介・挨拶 5 会長・副会長の選任 6 市の小学生に対する放課後の事業・現状等 事務局説明			

7	意見交換・協議
8	次回以降の開催予定について

<審議内容>

1 開会

2 副市長挨拶

○副市長

皆様こんにちは。

つくば市の副市長の松本でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

本日大変暑い中、そして御多忙の中、この放課後の在り方検討会の委員として検討会に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

近年共働きの世帯の増加、それから家庭環境の多様化などによりまして、小学生の放課後の過ごし方に対する関心が高まってきております。

つくば市におきましても、これまでいくつかの放課後の事業を行ってまいりましたが、事業の内容や提供状況は地域によってそれぞれ違っているような状況でございます。

放課後子どもたちが安心して伸び伸びと過ごせる環境を整えることは、本人の健やかな成長を支援するとともに、保護者の子育て支援、それから地域コミュニティの活性化にも繋がる重要な要素であると思っております。

そのため放課後の現状や課題を整理しながら、地域ごとの特色を踏まえた今後の放課後の在り方の検討を進めて参りたく、この検討会を立ち上げるに至りました。

子どもたちの豊かで希望に満ちた未来のために、放課後のよりよい環境づく

りに取り組むためには何ができるのか、何をすべきなのか、皆様の専門知識や御経験をもとに活発な御議論をお願いしたいと思いますので、どうぞよろしく願いをいたします。

3 「放課後の在り方検討会」趣旨等 事務局説明

4 委員紹介・挨拶

5 会長・副会長の選任

6 市の小学生に対する放課後の事業・現状等 事務局説明

○事務局説明

○小村会長

それでは、次第7、意見交換・協議に進めていく前に、事務局説明に対して何か基本的な質問等あったら先にお受けしたいと思いますですが、いかがでしょう。

ある方いたら、挙手でお願いします。

はい。和泉委員どうぞ。

○和泉委員

はい。説明ありがとうございました。

質問はですね、まず8ページ目のニーズ。

不足している、児童館がない小学校区は一体どこなのかっていうところをちょっと知りたいなと思ったんですけれども、何個ぐらいで、どのエリアなのか。

○事務局

はい。ありがとうございます。

8 ページの一覧の中で一番右の枠に「児童館（一般来館）」と記載がございましたけれども、丸をしている小学校区には児童館がございまして、丸をしていない小学校区には児童館がないというような形になっております。

全体としまして多くあるのは、筑波万博の開発がされたところに開発がされたつくば駅周辺の地域ですとか、あと、周辺市街地と言いますけれども、旧町村地区にもそれぞれ少しずつあるというような状況でございます。

二回目以降にお出しをしたいと考えておりましたが、つくば市全体のどこに児童館が位置するか、どこに児童クラブが位置するかという施設マップを次回資料としてお示ししたいと思います。

○丹間委員

事実関係について2つ質問をお願いします。

1つは和泉委員からの御質問とも関連するんですけど、この8ページのところで、37のそれぞれの小学校区で情報をまとめているんですけど、放課後の時間に子どもたちがどういう動きをしているのかというところをもう少し具体的に掴みたいなと思ひまして。それぞれの小学校区の中でもう完結しているのか、あるいは校区を越えて隣の校区にある児童館まで来館するということがあるのかどうかです。子どもの実際の動きがわかるとありがたいなというのがまず1点目です。

2点目は、4ページでは4つの放課後事業を非常にわかりやすく整理していただいております。自治体によって、放課後事業の運営の在り方が様々ありますので、念のために私も知りたいのですが、この4つの事業は、それぞれ市役所あるいは教育委員会の中で、どこが所管をされていて、

その所管が異なる場合にはどのように連携されているのかを、前提知識として教えていただければと思います。

よろしくお願いします。

○事務局

はい。御質問ありがとうございます。

まず1点目の御質問に対してですけれども、「基本的には」になりますが、つくば市の場合は公営で行っている事業に関しては、基本的にその学区の子たちが来ていると思っていただいていいかなと思います。

まず、公営の児童クラブについてはその学校に在籍する子が申請の対象になります。

アフタースクールも同じく、放課後子供教室も同じです。

ただ、児童館の一般来館だけ、誰でも来ていいよという事業になりますので、学校、学区を越えて利用するということもありえるのですが、平日の放課後については、隣の学区に行くっていうのは、物理的に距離があってなかなか難しいかなと思っておりますので、基本的には放課後は、子どもたちが学区にある事業施設に行っているというのが現状かなと思っております。

2点目、記載の4つの事業の所管ですけれども、つくば市の場合は、載せている事業の所管は、こども・保健部のこども育成課で全て行っている事業になります。

7 意見交換・協議

○小村会長

それでは今回第一回ということですので、これから各委員の放課後に対する考えですとか、思いを共有していければなと思います。

まず、私から僭越ながら放課後についての思うところを挙げさせていただき

ます。

有坂委員もいるんでアフタースクールについても言いたかったんですけど、つくば市でも沼崎小でまず実証実験を行った後に、アフタースクール事業が大変人気だということでさくら小の開校に合わせて導入されて、今現在2校で行われているという実情がありまして、これもすごく好評だということを伺ってます。

これは、教育施設をいかに有効活用するかも非常に大事な観点なのかなと思っています。教職員さんの負担を軽減するということもあわせながら、千葉市でも全校導入に向けて進められているなど、すごい人気が高まっている地域だとどんどん広がっているような実態もあります。

つくば市でも、学校施設、体育館ですとか、また校庭でボールを使うとか、学校にある設備を眠らせていてももったいないので、場所としても活用していく、プラス、保護者さんのアンケートにもあったように、安全安心っていうのがすごくニーズが高いところですので、子どもたちの居場所としては、学校というところで管理されている状態で遊べるっていうのが一番安全安心に対するコストが非常にかかりにくいのかなと思っています。

体育館で遊ぶということについても、現在学校施設へのエアコン導入も進めている中で、すごく今も暑いですがけれども、今後もさらに酷暑が増えていく、そうなったときに、少しでも熱中症リスクも抑えながらなるべく伸び伸び遊んでもらいたい。そして、なるべく安全安心に過ごしてもらいたい。

こういったところを兼ね備えているのは、1つアフタースクールとしてすごくいいのかなと考えてます。

丹間委員が御質問されたように、所管してるのが全部こども育成課ということですが、学校施設は教育施設課が管理しているので、そことも連携をしていくのが必要で、私の要望としましては、今後の参考にもなると思うので、ぜひ教育施設課にも同席いただいて、今後そういった観点でアフタースクー

ル導入していくのはどうなのかも、この会での意見を受け取っていただければなと思っております。

以上です。

順次皆さん1人ずつ伺っていければなと思いますので、柳下委員いかがですか。

○柳下委員

はい。

御説明ありがとうございました。

私長らく学校現場に勤めていまして、小学校、中学校と関わってきたんですけども、その中で、一番言えることは、働く保護者が当然ながら多くなってきました。

以前でしたら、かなりの人数でおうちに帰って、一緒に過ごすっていう御家庭があったんですけども、昨今はみんな働く家庭で、しかもおじいちゃんおばあちゃんと一緒に住んでいるわけでもない。そういう御家庭の方が放課後をどのように過ごされるかっていうのは、とても関心事です。

その中でアンケートで示されてるように、放課後安心して過ごせる場であって欲しいって願うのは当然のことだろうなっていうふうに思います。

安心して過ごせているかっていうことについてなんですけども、不審者対策で、ここのところ声をかける人はみんな不審者という、子どもからするとそういう時代に入ってきてしまったんです。

地域の方がお子さんに声をかけたくてもかけられないという状況がうまれているのが、非常に心が痛いです。

でもこれが現実なので、そういう中で子どもたちが子どもたち同士、あるいは関係する人たちと安心して過ごせる場所って一体どこなんだろうかってな

った場合には、沼崎小やさくら小で展開しているように、学校なんですよ。学校ならば場所を変えずに、ただお世話になる方が変わるだけで、いつも遊び慣れているグラウンドや校舎が一部使えるっていうだけで、子どもたちの安心感は増すのかなというふうに思います。

ですから、まだまだアフタースクールは、沼崎とさくらでの展開でしかないんですけども、今後、他の地区でもし必要とするならば、学校でいたいなっていう子がいられるような環境を作っていくってことは1つ大切なことなのかなというふうに思っています。

○小村会長

ありがとうございます。

和泉委員、よろしいですか。

○和泉委員

はい。

教育委員会では、この事業全てこども育成課の事業なので、取り立てて放課後のことについて普段議論することはしないのですけれども、教育に関しては全てやはり教育大綱という、ある意味憲法のようなものに準じて行うということで、3年前に市長が招集する総合教育会議でのテーマとして放課後の在り方について議論しました。

その時の議論を3年ぶりなので、会議録を読み直してみましたら、その時に市長、教育長含め話し合ったのは、やはり学校を子どもたちの手に取り戻すことで、子どもの自由な時間、空間のためにプラス仲間、これ3つの間だねっていう話をしたのですけど、時間・空間・仲間のための場所をその環境調整をするのが大人の仕事であり、そこをやっていきましょうという、ある意味一致した意見がありました。

その中でアフタースクールが導入されてきたわけですが、その時に生涯学習課で推進しているコミュニティスクールがまさにこの地域と連携する事業なんですね。

アフタースクールで地域のスタッフとして市民先生という先生がいらっしゃるということを聞いて、これはまさに地域の人が学校に入って子どもたちと一緒にこの学びと遊びの場を作っていくということで、コミュニティスクールも大いに活用したらいいんじゃないかという意見もその時に出ていました。

とはいえやはり教職員の働き方改革とかその安全性の問題で、なかなかやはり放課後は子どもたちに全部開放して、先生たちは何も安全管理に関わらなくていいですよとは言えないですねっていうところがまだまだクリアするのが難しいとは思っています。

ただ、今、小村委員と柳下委員がおっしゃったようにやはり学校という場所が子どもにとっては、いちいち帰らなくていいっていうのもありますし、一番自分にとって馴染みのある場所であり、過ごせるんじゃないかという思いは私も非常に強く思っていますので、その可能性もこの会議で探れたらいいなと思いました。

以上です。

○小村会長

ありがとうございます。

続けて丹間委員をお願いします。

○丹間委員

先ほど会長の小村委員から思いを語っていいということでしたので、やはり一番大きなところでは、子ども・子育て支援プランの基本目標4にもありま

すけど、この「主体的」という言葉、ここが本当に重要だなと思いました。どうしても大人たち、市民の方たちの働き方とか家族の在り方とかが時代とともに変わってきていますので、大人の都合で子どもたちにこう過ごしてもらうしかないなとか、その中から居場所を選んでもらうしかないなっていうふうになることがあるんですけど、本来の考えに立ち返ると、一番の理想は、やっぱり子どもたち一人一人が放課後をどんなふうに過ごすのかっていうことを、自分で決めて過ごせるというのが一番根幹にはあると良いんだろうなと。

ただそうは言っても、やはり柳下委員もおっしゃっていたように子どもたちの安全が一番重要です。そういう安全に過ごせる場所っていうと、学校はすごく本当に重要な核になってくると、私も同じ思いを持ちました。

資料の最後 13 ページのところで、方向性の案としてたたき台を示していただいている図があって、遊びや体験活動の選択肢ということが書いてございましたけど、子どもたちが学校での学び、一日の授業を終えて、重いランドセルを置いて、放課後を過ごすということなので、もう少し、生活っていうような言葉をしっかりとこれからの議論の中で考えていかないといけないと思います。遊び・体験・活動だけで子どもの生活ということを網羅しているかというと、決してそうではなくて、この3つのどれでもなく、ちょっと疲れて、放課後はゆっくり一人の時間を過ごしたいとか、本を読んでいたとか、漫画を読んでいたとか、ちょっと休んでいたっていう子も当然いるでしょうから、そういう子どもたちの主体性を、議論の中で軸に置いていきたいなっていうのが1つあります。

それを議論していくうえでは、もちろんこの会議でもそうなんですけど、先ほど和泉委員がおっしゃったように、コミュニティスクールでは、子どもたちにどんなふうに育ってほしいのかっていう議論を、各地区、各学校で一生懸命にやっけていただいているところだと思います。コミュニティスクールは

学校の教育目標や運営方針、子どもにどう育ってほしいかというビジョンを議論していただくのはもちろんなんですけど、それと放課後の在り方っていうのは、ものすごく密接に関連していると思うんですね。

子どもたちの人間関係も放課後に繋がってくると思いますので、ぜひその辺りは、教育委員会との連携ももちろんですし、学校との連携ということもかなり深く考えていかないと、放課後の居場所づくりっていうのは実現していかないと思います。そんなところを大切にしながら議論していけたらなと思いました。

○小村会長

ありがとうございます。

続けて有坂委員をお願いします。

○有坂委員

ありがとうございます。

私はいろんな自治体様と一緒に放課後の在り方を検討させていただいているので、学校を使ってみんなが遊べる場所を作っていこうっていうのは、多くの場合、皆さん総論で賛成っていう形でいきますが、委員皆さんおっしゃるように、先生の働き方改革であつたりとか、実際になるとなかなかたくさんハードルがあるところをどうみんなでクリアしていこうというところなのかなと思っております。

私が一番、今感想としましては感銘を受けたのが、この子育て支援のプランの中に「全ての子どもが」っていうところが結構強調して書かれているところでして、今はもう共働き世帯が7割超えて、つくば市もそのぐらいだと思うんですけども、この間、放課後児童クラブに登録している子たちを160万人最新で超えまして、データで見てもみしたら1998年からとり始めている

中では、そこから5倍ぐらいですね。しかし、私が子どもだった時はって
いなかったぐらいなので、もう今や児童クラブ自体もインフラ化してますし、
放課後の時間を学童クラブだけではなくて、みんなでどうしていくか、柳下
委員がおっしゃったように考える場かなと思いました。

その中で学校を使っていくっていうのが一番でありつつ、私たちの団体とし
てもすごく推奨してるところです。

一方、子どもたちにとって、1個場所があればいいかというと、いろんな場
所があることのメリットもありますので、例えば大人の都合で乱立してるも
のを一緒にしていこうみたいな議論もあるんですけども、あるところのい
いものをいかしつつ、アフタースクールが学校の中にもつくられていけばい
いんじゃないかなと思います。

アフタースクールを作っていくときに、ボトルネックになっていくところを
いくつか他の自治体様の例も含めて御紹介させていただきますと、1つが、
さっき丹間委員がおっしゃったように、子どもたちって結構リラックスして、
動き回ったりしたいんですよね。もうお勉強とかしたくなくて、ゴロゴロし
たいってこともあったりとかします。一方、学校施設自体は割と硬質でしっ
かりと前を向いて、音も反響するように作られていたりとかしますので、そ
れをいかに子どもたちがリラックスもできるようにするとか、ちょっとほっ
とできるような環境にするっていうのは工夫が必要だったりするかなと思い
ます。同じ環境面で申し上げますと、先ほど小村会長がおっしゃってくださ
ったように学校自体セキュリティも含めて、学校の先生方が管理するものと
して作られておりまして、例えば、入口1つとっても、いろんな人が入って
くるときにセキュリティをかなり厳密にしなければいけないとか、ハードの
面で、結構工夫しなきゃいけないところはあるかなと思いますので、施設課
の方と一緒にやるってことはあります。

何か子どものトラブルとかあったときに、先生に共有したりする中で、例え

ば個別配慮が必要な子たちのことを先生方と共有できて先生方もすごくよかったっていう声があるんです。一方、そこに至るまでは、やはり負担が増えるっていうような声もありますし、実際教室を貸してください、ここは貸せませんということで負担が全くないわけではない。そこをどううまくルールを作ったりとかしながら、先生も Win-Win の関係を続けていくか、いけるかっていうところが、私たちもいつも試行錯誤しつつ、どっちかというところ、その現場のスタッフ任せになってしまっているところもありますので、そこはこの3つで、ハード面とソフト面、いかにいけるかということと、他の場を残しながらアフタースクールも作っていくっていうところがあればいいかなと思っております。

○会長

ありがとうございます。

では最後、副会長からお願いします。

○飯塚委員

はい。ありがとうございます。

そうですね。

うちの子どもを例にすると、長男が小学校6年生なんです。

帰ってくると、ランドセル置いて、まず iPad に向かうんですね、YouTube を見てるんです。「お前何やっとなじゃ」という話はよくするんですけど、逆に小学校2年生の子どもが帰ってくると、「お父さん遊び行ってくるよ」という形でお友達と勝手に約束をして、近所のお友達と遊びに行っています。私が住む地域は、近くに大きな公園はあるんですけど、自転車で10分ぐらい行かないと大きな公園がないんです。

私が小学校のときは、授業が終わった後、帰らずにグラウンドで遊んでいた

んです。

あんまり遅い時間になってグラウンドで遊んでると、先生が「おいお前ら帰れ」って怒鳴りつけられて「しょうがねえな」なんて言いながら、みんなこそこそ帰るっていう現状だったんです。

だから先ほど皆さんおっしゃっていた学校施設や公園がたくさんある、でも同じつくば市の中でも、筑波山に近い方の秀峰筑波、一番南部である荃崎という地域では、距離にして車でも40分、50分かかるぐらい、つくば市は広い。そして、もちろん万博後、TX開発後の地域は環境も全然違いますから、地域差が生まれるのは、絶対的にしょうがないことだと僕は思っています。それを一律同じにするのは、まず無理な話で、先ほど皆さんがおっしゃっていた地域特性と子どもたちのコミュニティ、大人じゃなくて子どもたちが作っているそのコミュニティを大切にしつつ、この話を進めていかないと、大人たちが勝手にこうしたい、ああしたい、こうしたらきっと子どもが喜ぶんじゃないかというスタンスだと、大人のエゴが動いちゃうのかなって僕は思ってるんです。

なので、子どもたち同士のコミュニティ、僕らだったら小学校終わって友達とグラウンドで遊具で、今なかなか遊具ない時代なんですけど、遊んできたそれぞれの小学校なりの、その差とか特性をいかすのが一番なのかなあと。

もちろんアフタースクール今話聞いてると、すごい楽しそうだなって思いはあるんですけど、できる地域だったりできない地域は必ずあると思うので、それはその地域に根差した形でやってくしかないのかな。一律同じっていうのは、絶対無理な話なので、そういうふうにはやっていかなきゃいけないのかなって、ふと思いました。

学校をそのまま使えるっていうのは、すごくいいことなんじゃないかなって僕は思うので、皆様おっしゃったその学校を、またそういう施設として使えるようにしていくためにはもちろん施設課さんとの共有ももちろん大事だと

思います。

もしかしたら大変かもしれないけど、そういうことに関わる人達を集めていくことが必要なんじゃないのかなというふうにお話を聞いてて思いました。
以上でございます。

○会長

皆様活発な意見交換や協議ありがとうございました。

私の実感で言うとまだあるのかな。もう1周しますか。

大丈夫ですか。はい。

では、和泉委員どうぞ。

○和泉委員

今の飯塚委員の意見とか、多分全員同じ思いかと思うのですが、やっぱり「こども真ん中」と子育てプランにも大きく書いてあるとおり、子どもが一番楽しく過ごせるためにはどうしたらいいかを考えるときに、子どもの思いとか願いを直接聞いたことを聞き取りとか何かアンケートを今までされたことがあるのか育成課の方にお聞きしたいと思ったのですが。

○事務局

はい。ありがとうございます。

放課後につきましては、アフタースクールを始める前と始まって1年目の時に、沼崎小学校の児童にアンケートをとりました。

今現状どう過ごしているかですとか、何をしてるときが楽しいかとか、何をしたいかとか、率直な思いを聞きました。

あと、第3期子ども・子育て支援プランの中でも、高学年にはアンケートを

とっているのですが、そこでは放課後について聞いていないので、お示しすることができないんです。

ですが、アフタースクールに特化した形にはなってしまうんですが、そういうようなアンケートを取ったことはございます。

○小村会長

その辺の資料も2回目以降にまた用意していただけたらきっと何か参考になることが大いにあるんじゃないかなと思うので、お願いします。

○事務局

はい。承知しました。

○小村会長

他に何か。

丹間委員どうぞ。

○丹間委員

関連してお願いします。

今、和泉委員からは、子どもの声をという御意見だったと思うんですけども、先ほど児童館のところで、小学生の利用が非常に多いので、現状、中高生がなかなかそこに入っていく余裕がないという御説明もあったかと思います。

この会議自体は、要項にあるとおり小学生が対象にはなっているんですけど、小学生の居場所を考える上で、中高生のことも視野の中には入れておいたほうがいいのかなど。

先ほどの点で、放課後どう過ごしたいかっていうことを小学生低学年の子に

聞いても、現状自分が知っている、自分が実際過ごしているその選択肢の中だけでどうしても考えてしまうと思うので、なかなかアンケートをとっても、子どもの声の引き出し方は難しいと思います。ただ、例えばつくば市の小学校6年間を終えた中学生であるとか、更に高校生になった子たちに、本当はどういうことをして放課後を過ごしたかったかということを、何年か経ってから振り返ってもらいと、もっとうこういう場所あったらよかったんじゃないかっていう、それこそ視野を広げた中高生たちが、後輩たちのことを思って声を出してくれるってこともあると思います。この会議では小学生のことを考えていくんですけれども、そのためにもぜひ中高生まで視野を持ちながら議論していくのが大事なのかもしれません。

以上です。

○小村会長

ありがとうございます。意見として伺っておきます。

ありがとうございます。

はい。有坂さんどうぞ。

○有坂委員

まさに今、中・高学年の子たちの居場所が、特に中学生とか、意外とないっていう。制度としてなにかない、隙間にあるっていうことで、相談を受けたりすることもあるんですけども、さっき飯塚委員がおっしゃったように1・2年生と5・6年生の過ごし方とかも全然違っておりまして、本当に子どもたちの声ひとつとっても、全然違いますよね。

私たち団体として得意としてる分野が子どもの声をきちんと、大人が答えを持ってる子ども会議じゃなくて、本当の声を聞くというところをやっており

まして、もしかすると何らかのステップの中でそういった声を聞く会があってもいいのかなと思いましたし、意外と親が分かっていたりするんですよね。

今までアンケートとかいろんな形で取っていても、子どもたちが本当に外で遊びたい、どんなに遊んでも、遊んでも外で遊びたいって子多いですし、あとは友達といたい、何でもいいんですけど友達といたいとか、大人が思ってるよりも恣意的に何かしたいというよりは、本当に好きなことをしたいっていう声が多くて、それをちゃんと取り入れる何か仕組みとか、それをきちんと体现していくっていう会になるといい会なのかなというふうに思いました。

○小村会長

ありがとうございます。

ちょっと丹間委員と有坂委員の御意見からですけど、例えば学校全体に、小学生のときどう過ごしたかったとか、現状どういうニーズがあるかを改めてアンケート聞くってもしなった場合は、これ教育局のどこに言えば、所管がきつとあると思うんですけど、そこにも同席いただけたらいいんじゃないかという意見だということで、一旦承りました。

ちょっと可能性も含めてちょっと一旦持ち帰らせていただきます。

ありがとうございます。

ということで活発な意見交換や協議ありがとうございました。

フリートークに近い形で皆様の御意見を出していただきましたが、次回以降は今日の話も踏まえて、事務局に改めて資料も出していただいて、最終的には、スケジュール案の流れで14ページにありますとおり、令和9年の7月ごろには最終取りまとめにいけるように、都度この項目で話し合っていきたい

と思いますので、これについてもよろしいでしょうか。

まだわからない部分も多いかとは思いますが、こういう方針でいこうというところで、何か御意見がありましたらお願いします。

和泉委員どうぞ。

○和泉委員

はい。

12 ページ 13 ページ、今後の方向性が具体的に示されているけれども、どれぐらい、すごく足りなくて、もうハード面も足りない。ものすごく急がなきゃいけない状況なのか、その緊急度がどうなのかというのがちょっと、よくわからないので、例えば 13 ページ、最後のページですね、やはり目指したい状態は全ての小学校にというのがゴールだとは思う一方で、優先順位というのはあると思うんですね。

今後第二回目から示していただくのか、全体的に、もうちょっと焦点化させないと、各論で終わってしまうのかなあという印象を持ちましたというのが今の感想というか、思いです。

○小村会長

ありがとうございます。

当会でこの子育て支援プランが参考にはされるとはなってるんですけども、実際にここを変えますみたいなどころまで明言されてないのは、おっしゃるとおりでして、どのぐらい効力を発するのかまでは明言はできないんですけども、皆さんからいただいた意見の中で共通する部分とか、何となく課題感が共通する部分として結構あったかと思うので、そこを基軸に進めていければなというところがあります。

例えば、昔から時代の変化で核家族化とかも進んできたり、共働き世帯が増

えてきて、家庭としての在り方みたいなのも大分変化があったりする中で、学校も昔は使えたけど今使えなくなってるとか、気温もすごい高くなってるとか、いろんな状況がある中で、挨拶もできない、声をかけられない街ってというのは何かおかしいよねっていう違和感は皆様共通して持ってると思うんです。

そういったところを何とか変えていくひとつになればなというところで、大枠は共通の地域の子どもたちとの関わり方みたいなのところも大きいんでしょうけど、まず、放課後の在り方として小学生たちに対して何ができるかといったところで、学校を有効活用していくのがいいんじゃないかっていうのが概ね1つと、あと地域によって、子どもたちによって、すごくいろんな意見も出るでしょうから、そこを聞いてみましょうっていうのがあったかなと思ってます。

なので、最終的な方針までは今回ははっきりは決まらないんですけども、大枠皆さんの中で何となくそんな方針でいいのかなと話を聞いていて思いました。ですので、まずは資料をいただいたりとか、教育施設課ですとかに来てもらってまた別途説明していただくとか、それを踏まえて、より具体的に我々として目指していく方向性みたいなのを見いだしていければなと思いますがいかがでしょうか。

ということでスケジュールなどについては、よろしいですか。

この方針で進めていくということで。

はい。ありがとうございます。

8 次回以降の開催予定について

第一回 放課後の在り方検討会

日時 令和 8 年(2026 年) 7 月 21 日(火)

午後 2 時から

場所 つくば市役所

コミュニティ棟 1 階 会議室 1

《次第》

- 1 開会
- 2 副市長挨拶
- 3 「放課後の在り方検討会」趣旨等 事務局説明
- 4 委員紹介・挨拶
- 5 会長・副会長の選任
- 6 市の小学生に対する放課後の事業・現状等 事務局説明
- 7 意見交換・協議
- 8 次回以降の開催予定について

<配布資料>

- ・ 次第
- ・ 放課後の在り方検討会開催要項
- ・ 放課後の在り方検討会 委員名簿
- ・ 第 3 期 つくば市子ども・子育て支援プラン
- ・ つくば市教育大綱
- ・ 第一回 放課後の在り方検討会 事務局説明資料

放課後の在り方検討会開催要項

（趣旨）

第1条 小学生の放課後においてつくば市が提供する様々な事業の現状や課題を整理するとともに、地域（学区）の特性を踏まえ、課題の解決策やつくば市の小学生の放課後に対する政策の方向性を検討することを目的に、放課後の在り方検討会（以下「検討会」という。）を開催する。

（検討事項）

第2条 検討会は、次の各号に掲げる事項について検討及び意見交換をする。

- （1）小学生の放課後に係る事業及び居場所に関する事
- （2）小学生の放課後における地域及び学区の特性に関する事
- （3）小学生の放課後の現状と課題に関する事
- （4）小学生の放課後に市が提供する事業の方向性に関する事
- （5）その他小学生の放課後の在り方を検討するために必要な事項に関する事

（構成）

第3条 検討会は、次に掲げる者をもって構成する。

- （1）副教育長
- （2）市議会議員
- （3）教育委員
- （4）教育に関する学識経験者
- （5）小学生の放課後に関する有識者
- （6）保護者を代表する者

（会長）

第4条 検討会には会長及び副会長を置く。

- 2 会長は、構成員の互選によって定める。
- 3 副会長は、会長が指定した者とする。
- 4 会長は、検討会の会務を総理する。
- 5 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 検討会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。

- 2 会長は、会議の議長となる。
- 3 会議は、構成員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 4 会長は、必要に応じて構成員以外の者を会議に出席させることができる。
- 5 会議は、やむを得ない事情がある場合は、オンラインや書面により開催することができる。

(謝礼)

第6条 会議に出席した構成員は、会議への出席に係る謝礼を受けることができる。

ただし、これに代わる対価を別に得ている場合には、この限りではない。

- 2 前項の額は、会議への出席につき、10,000 円とする。
- 3 第1項の謝礼の支給方法は、原則として銀行振込とする。

(開催期間)

第7条 検討会は、附則の施行の日からの開催とする。

(庶務)

第8条 検討会の庶務は、こども・保健部こども育成課において処理する。

(補則)

第9条 この要項に定めるもののほか、検討会の組織及び運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

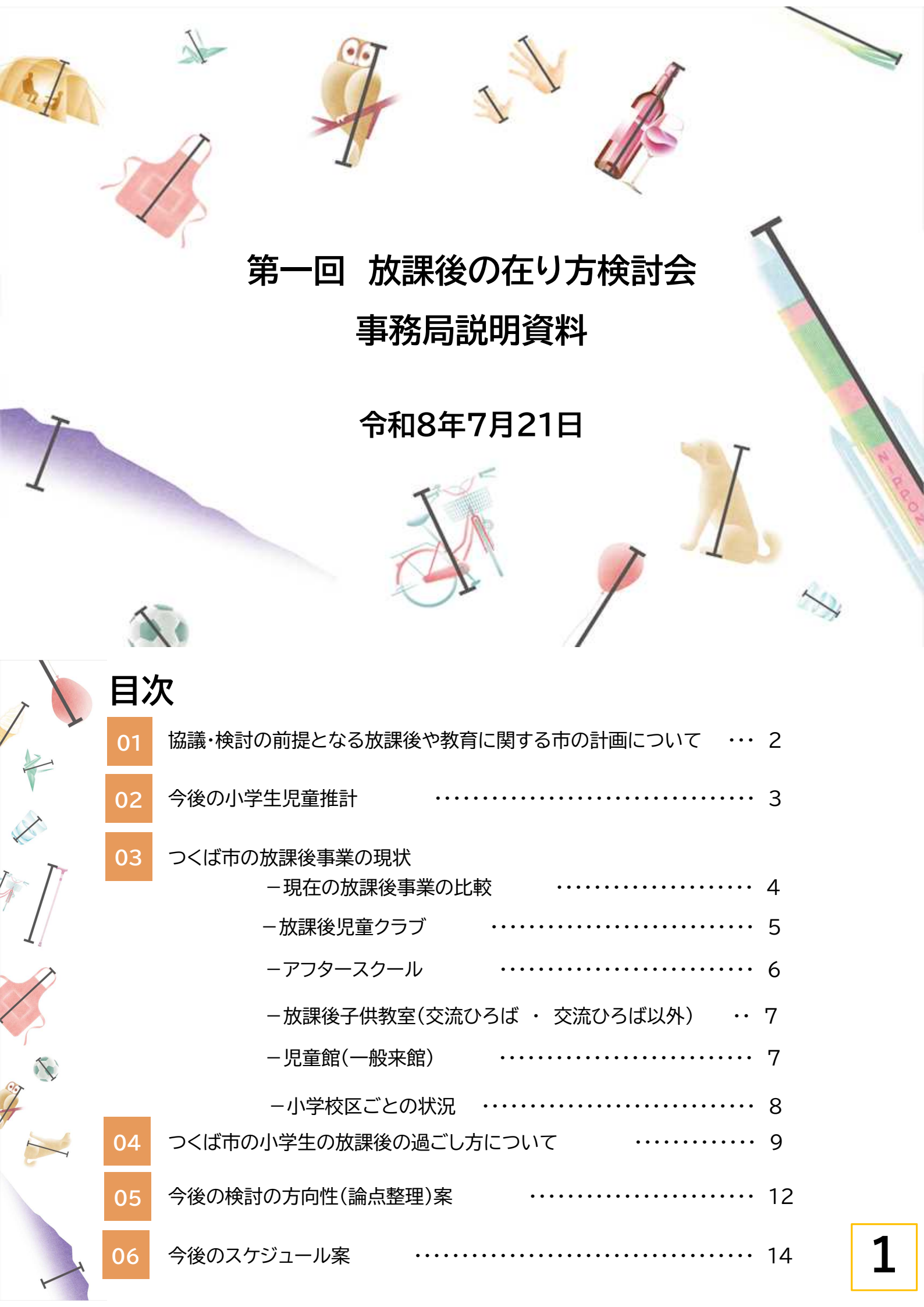
この要項は、令和8年5月21日から施行する。

附 則

この要項は、令和8年6月30日から施行する。

放課後の在り方検討会 委員名簿

	氏 名	所属・団体・肩書	放課後の在り方検討会開催要項 構成
1	柳下 英子	つくば市副教育長	副教育長
2	小村 政文	つくば市議会議員 福祉保健委員会 委員長	市議会議員
3	和泉 なおこ	つくば市教育委員	教育委員
4	丹間 康仁	筑波大学人間系教育学域 准教授	教育に関する学識経験者
5	有坂 絢子	特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール 事業統括責任者	小学生の放課後に関する有識者
6	飯塚 康弘	PTA等連絡協議会 会長	保護者を代表するもの



第一回 放課後の在り方検討会 事務局説明資料

令和8年7月21日

目次

01	協議・検討の前提となる放課後や教育に関する市の計画について	2
02	今後の小学生児童推計	3
03	つくば市の放課後事業の現状	
	ー現在の放課後事業の比較	4
	ー放課後児童クラブ	5
	ーアフタースクール	6
	ー放課後子供教室(交流ひろば・交流ひろば以外)	7
	ー児童館(一般来館)	7
	ー小学校区ごとの状況	8
04	つくば市の小学生の放課後の過ごし方について	9
05	今後の検討の方向性(論点整理)案	12
06	今後のスケジュール案	14

協議・検討の前提となる 放課後や教育に関する市の計画について

配布資料参照

第3期つくば市子ども・子育て支援プラン

P49～53

基本目標4 主体的にして広く豊かな経験を育む ～地域や放課後等における子どもの活動環境の充実～

- (1) 特色をいかした放課後等の居場所の整備
- (2) 子どもが主体的に活動するための支援の充実

つくば市教育大綱

P5

IV つくばでの「学び」の特徴

- ④ 実体験を大切にする学び
- ⑤ 遊びによる、非認知能力を高める学び

P6

V つくばが目指す「学び」の場

- ② こどもが自らつくる場所

P8

VI つくばの「学び」実現に向け、いま必要なこと

- ④ 保護者・地域・学校・行政の対話と協働の推進

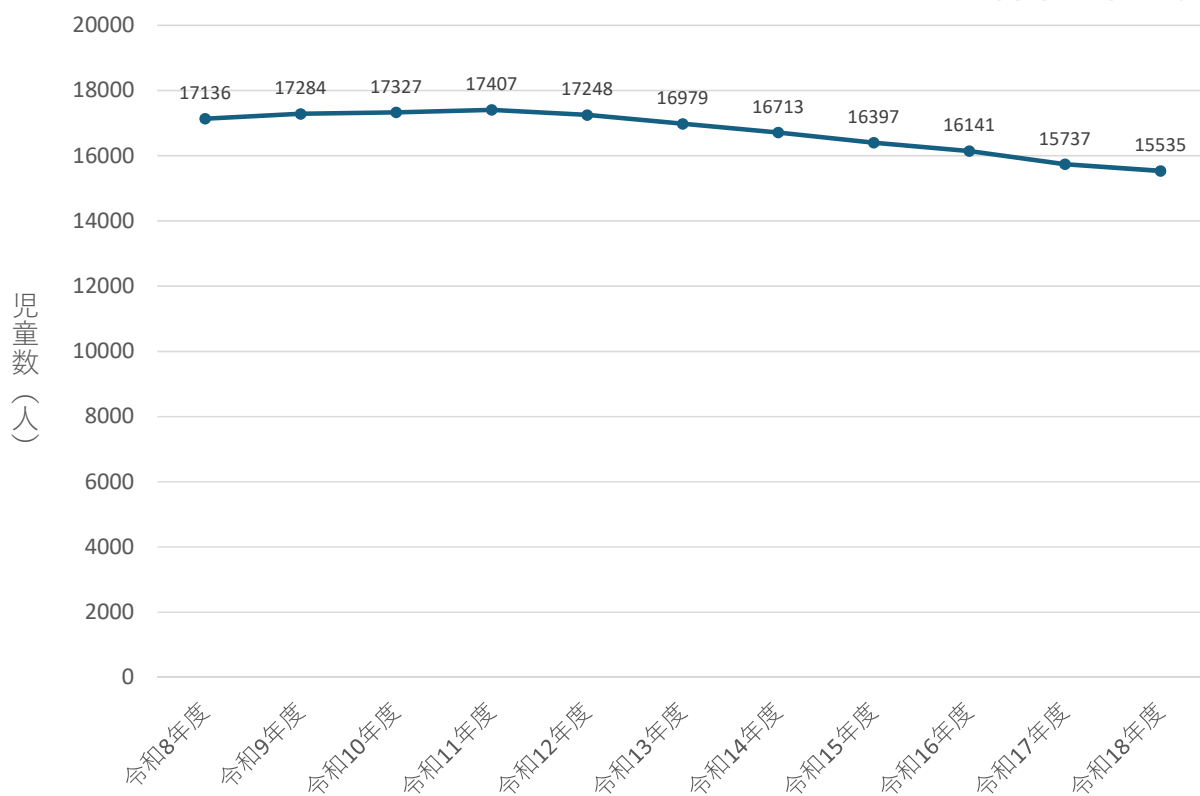
02

今後の小学生児童推計

02

今後の小学生児童推計 令和8～18年度

-「つくば市学校等適正配置計画・指針」児童数将来推計より
(令和6年度時点推計)



03 つくば市の放課後事業の現状

03 つくば市の放課後事業の現状 – 現在の放課後事業の比較

事業名	放課後児童クラブ		アフタースクール	放課後子供教室		児童館(一般来館)
	公営	民営		交流ひろば	交流ひろば以外 (学校開催等)	
重視する機能	保護者が労働等により昼間家庭にいない児童に対する遊びや生活の場の提供		自主的に様々な活動を体験できる居場所の提供	学習や様々な体験・交流の機会の定期的・継続的な提供		健全な遊びの提供
保護者の就労等要件	あり	あり	区分1:なし、区分2:あり	なし	なし	なし
開所(開催)頻度	週5日(月～金) ※第2土曜日は開室	各放課後児童クラブにより異なるが、多くは週5日(月～金)以上	週5日(月～金) ※第2土曜日は開室	週4日または5日	地域ごとに異なる(年1回～月1回程度)	週5日(月～金) ※第2土曜日は開館 ※一部土日開放
開室時間(平日)	下校～19:00 (一部18:30まで)	各放課後児童クラブにより異なる	区分1:下校～17:00 区分2:下校～19:00	放課後1時間程度	放課後1時間程度	8:30～18:00
開室時間(学校休業日)	8:00～19:00 (一部18:30まで)	各放課後児童クラブにより異なる	区分1:9:00～15:00 区分2:8:00～19:00	実施なし	実施なし	8:00～18:00 (小田児童館は8:30～18:00)
活動場所	・児童館内 ・学校近隣の専用施設 ・学校施設	専用施設	学校施設 (一部、隣接の専用施設)	(みどりの・学園の森・秀峰筑波・研究学園)放課後児童クラブ内	・学校施設 ・児童館等	・児童館 ・児童センター
利用料金	月額4,000円 (別途傷害保険料等あり)	各放課後児童クラブにより異なる	区分1:月額3,000円 区分2:月額4,000円 (別途傷害保険料等あり)	無料	無料	無料

● 事業概要

保護者が労働等により昼間に家庭にいない児童に対し、放課後等に遊びや生活の場を提供することで、児童の健全な育成を図る事業

※「保護者の労働等」には、保護者の疾病や介護・看護、傷害なども該当

● 運営形態(公営)

	児童館内の放課後児童クラブ (指定管理を除く)	児童館内ではない放課後児童クラブ	
運営方法	直営	直営	事業者へ委託
個所数 (支援の単位数)	16か所 (30支援の単位)	4か所 (6支援の単位)	10箇所 (41支援の単位)
活動場所	・児童館内 ・児童館敷地内専用棟 ・学校校舎内の教室	・学校敷地内・隣接地の専用棟 ・学校校舎内の教室	

● 登録児童数(公営)

3,051人 令和8年4月時点

《参考》

放課後児童クラブ(民営) 個所数(支援の単位数): 66か所(96支援の単位)
登録児童数 : 3,111名

令和8年4月時点

● 待機児童数

0人 令和8年5月時点

● 放課後児童クラブでの過ごし方、主な活動内容

基本的な生活習慣を身につけるため、多くの放課後児童クラブでは、支援の単位(クラス)ごとや学年ごとに以下のような活動を時間を決めて過ごす

- ・自由遊び(室内遊び、外遊び)
- ・宿題や学習の時間
- ・おやつ (提供される場合が多い)
- ・イベント、季節の行事

例 下校からの過ごし方

14:30 下校
 学習(宿題)や読書
 15:00
 おやつ
 15:30
 支援の単位(クラス)内で
 自由遊びやイベント
 16:30
 外遊び

多くの放課後児童クラブでは
支援の単位(クラス)ごとに過ごす

● 市が実施する上での放課後児童クラブ(公営)の課題

- ・放課後児童クラブ(民営)との差(月額料金、開所時間)
- ・地域(小学校区)により定員を超えての申請
- ・放課後支援員の確保

● 事業概要

地域社会との交流及び連携を図りながら、児童に対し、放課後等に学校施設を活用し、自主的に様々な活動を体験できる居場所を提供し、児童の健全な心身の成長を図る事業

● 利用区分

	区分 1 (希望する全ての児童が利用可能)	区分 2 (放課後児童クラブの入会要件を満たす児童が利用可能)
対象	対象小学校に就学する 1 年生～ 6 年生の児童	
利用要件	なし	保護者の就労・介護などの理由により、放課後に保育を受けることができない児童（児童クラブ入会要件を満たす者）
定員	なし	あり

※区分1と区分2の児童は一緒に過ごす。

● 運営形態

運営方法：事業者へ委託
個所数：2か所

● 登録児童数

306人（区分1:101人 区分2:205人） 令和8年4月時点

● アフタースクールでの過ごし方、主な活動内容

複数の教室で様々な活動を展開し、児童自身のやりたい活動を自由に選んで過ごす

一緒に遊ぶ



自分で選ぶ



「好き」を見つける



自由遊び

みんなでわいわい

ボードゲーム・工作・ブロックなど

ひとりでゆっくり
宿題・読書など

思いっきり体を動かす

校庭で外遊び
体育館でスポーツ

その日の活動は自分で選べる

通常プログラム

地域の方による
講師プログラム

スタッフの得意を
活かした体験活動
工作・手芸など

児童の「やりたい！」から
生まれる活動

習い事プログラム

スポーツ系

文化系

(使用料とは別に料金徴収)

● 市が実施する上でのアフタースクールの課題

- ・学校との調整、共通理解
- ・活動場所の確保
- ・放課後支援員、地域人材の確保
- ・運営ノウハウ、事業実績の蓄積
- ・放課後児童クラブ(民営)との差(月額料金、開所時間)

つくば市の放課後事業の現状 – 放課後子供教室

(交流ひろば・交流ひろば以外)

● 事業概要

小学生を対象とし、小学校や交流ひろばなどの施設を活用して、地域ボランティアの協力のもと、放課後の時間等に、さまざまな体験活動を楽しみながら、子どもたちが安全・安心に過ごすことができる場を提供する事業

	交流ひろば	交流ひろば以外 (学校・児童館開催)
実施概要	児童クラブ施設内に設置した放課後子供教室専用室で実施する常設型の放課後子供教室(イベントや学習支援)	各学校からの希望により余裕教室や体育館で実施する放課後子供教室
個所数	4か所	
実施内容	・イベント(工作、音楽、スポーツ、理科実験等) ・学習支援	イベント(工作、音楽、スポーツ、理科実験等)
実施頻度	週4日(秀峰筑波は週5日)開室 ・イベント 週3日程度 ・学習支援 週1回	学校開催 (令和7年度実績) ・年1～5回 20校 ・年6～10回 2校 ・年11回以上 1校 (年0回 13校 ※特別支援学校を除く) 児童館開催 ・年1～5回 2館
参加児童数 (令和7年度実績)	平均 約29.2人 / 1回 (総参加児童数16,279人)	平均 約34.8人 / 1回 (総参加児童数2,995人)

● 市が実施する上での放課後子供教室の課題

- ・地域差 (交流ひろば4か所のみ、学校開催頻度の差)
- ・学校からの希望があった場合のみの開催
- ・地域人材の確保

つくば市の放課後事業の現状 – 児童館(一般来館)

● 事業概要

児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする事業
※児童館一般来館における「児童」は小学生に限らない。

● 運営形態

運営方法	直営	指定管理者
個所数	17か所	1か所

● 一日当たりの平均利用人数 (令和7年度実績)

～10人程度	荃崎児童センター、吾妻東児童館、上郷児童館	3か所
11～20人程度	栄児童館、吉沼児童館、並木児童館、桜南児童館、小田児童館、大曾根児童館	6か所
21～30人程度	九重児童館、手代木南児童館、竹園東児童館	3か所
31～40人程度	松代児童館、二の宮児童館	2か所
41～50人程度	吾妻西児童館、竹園西児童館	2か所
50人～	谷田部児童館、東児童館	2か所

● 市が実施する上での児童館の課題

- ・地域差 (児童館のある地域とない地域の差)
- ・放課後児童クラブが併設されていることにより放課後の時間帯が利用者(小学生)で過密
- ・施設老朽化への対応(大規模改修等)

つくば市の放課後事業の現状 - 小学校区ごとの状況

小学校区	放課後児童クラブ (公営)	アフタースクール	放課後子供教室		児童館 (一般来館)
			交流ひろば	交流ひろば以外	
大曾根					○
前野				学校年5回 ※	
要	○			学校年2回 ※	
吉沼	○			学校年5回 ※	○
沼崎		○		学校年15回 ※	
今鹿島				学校年5回 ※	
上郷	○			学校2回 ※	○
谷田部	○			学校年3回 ※	○
谷田部南	○			学校年2回 ※	
真瀬				学校年5回 ※	
島名				学校年1回 ※	
葛城	○				
柳橋	○				
小野川				学校年2回 ※	
手代木南	○			学校年1回 ※	○
二の宮	○			学校年1回 ※	○
栄	○			学校年1回 ※	○
九重	○				○

※放課後子供教室(交流ひろば以外)については、令和7年度実績の回数(年度により異なる)

小学校区	放課後児童クラブ (公営)	アフタースクール	放課後子供教室		児童館 (一般来館)
			交流ひろば	交流ひろば以外	
桜南	○				○
栗原	○				
竹園東	○				○
並木	○			学校年3回 ※	○
吾妻	○			学校年2回 ※	○
竹園西	○			学校年2回 ※	○
松代	○			学校年6回・児童館年1回 ※	○
東	○				○
荃崎第一	○			学校年1回 ※	
荃崎第二	○			学校年6回 ※	
荃崎第三	○			学校年3回 ※	○
香取台	○				
研究学園	○		○	学校年2回 ※	
みどりの南	○				
さくら		○			
春日学園	○			学校年2回 ※	
秀峰筑波	○		○	児童館年5回 ※	○(小田)
学園の森	○		○		
みどりの学園	○		○		

※放課後子供教室(交流ひろば以外)については、令和7年度実績の回数(年度により異なる)

04

つくば市の小学生の放課後の過ごし方について

(子ども・子育て支援プラン策定基礎資料アンケートより)

—令和5年度実施—

04

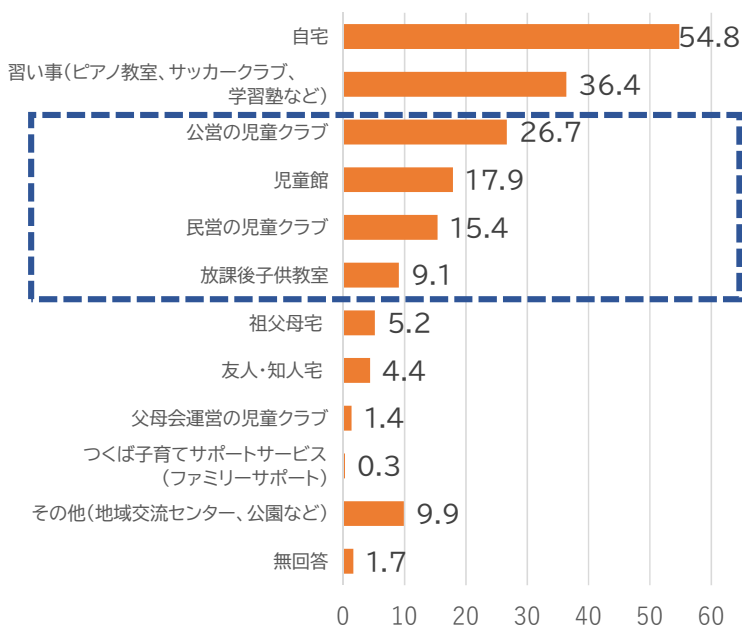
つくば市の小学生の放課後の過ごし方について

—子ども・子育て支援プラン策定基礎資料アンケートより(令和5年度実施)—

小学校1～3年生の間は、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

(あてはまる番号すべてに○)

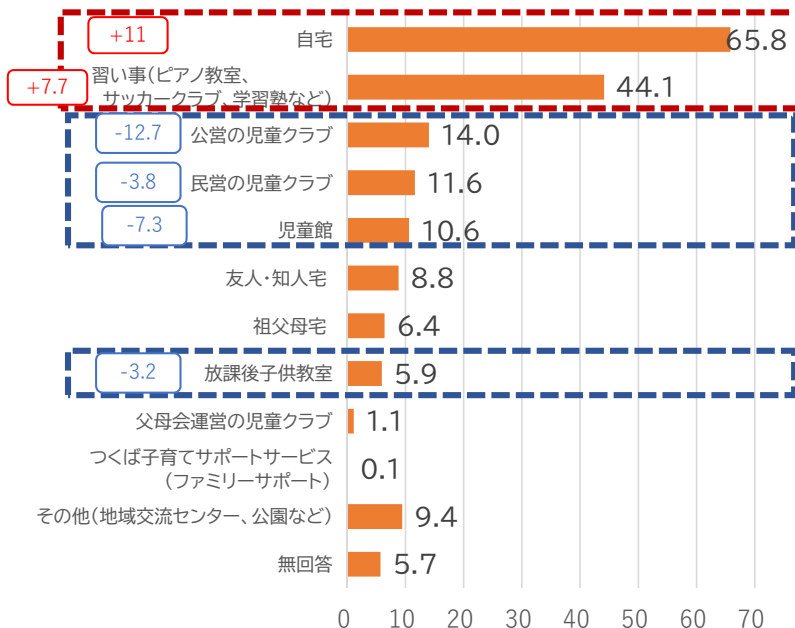
※対象:小学校1～3年生の保護者のみ <回答者数=363>



小学校4～6年生の間は、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

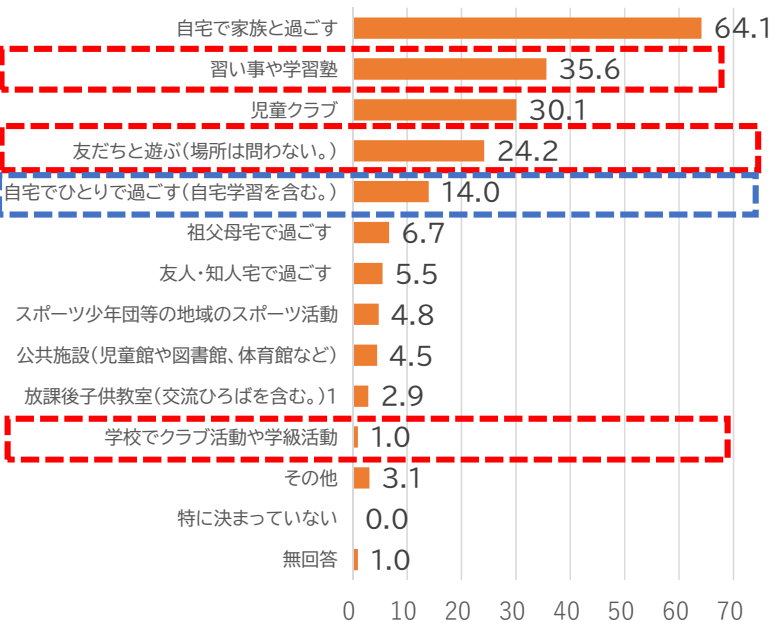
(あてはまる番号すべてに○)

※対象:小学生の保護者 <回答者数=714>

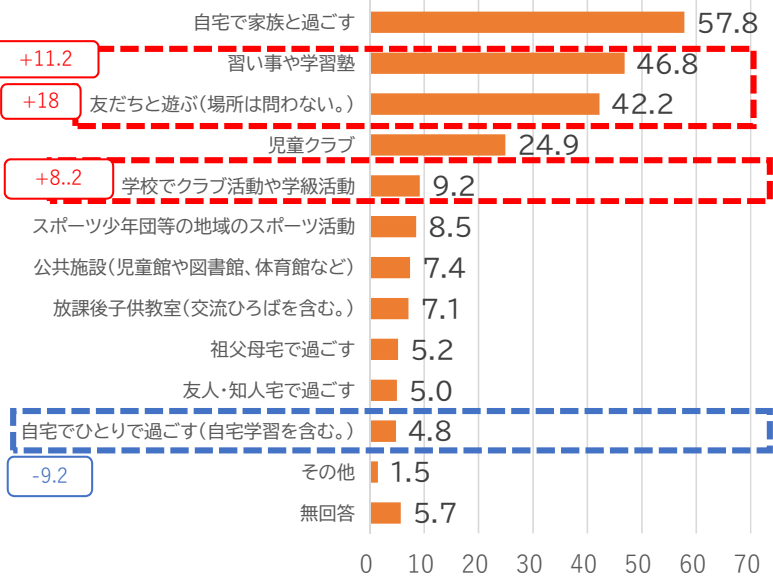


高学年になると、放課後事業の利用から自宅や習い事など個々の過ごし方へ変化する傾向がある。

お子さんは、平日の放課後から夕食時あたりまで主にどのように過ごすことが多いですか。(あてはまる番号すべてに○)
※対象:小学生の保護者 <回答者数=714>

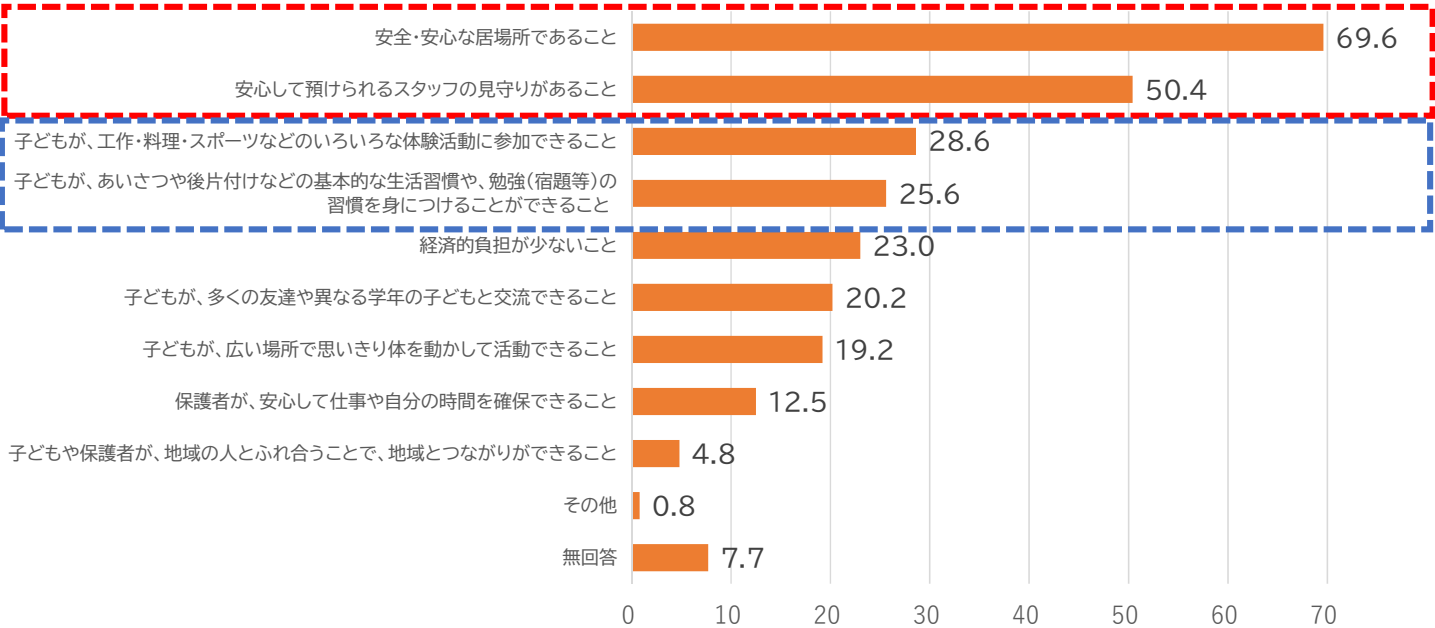


平日の放課後の時間を、お子さんにどのように過ごしてほしいと思いますか。(あてはまる番号3つまでに○)
※対象:小学生の保護者 <回答者数=714>



放課後の過ごし方の現状と保護者の希望に差が大きいのは、「習い事や学習塾」「友達と遊ぶ」「自宅でひとりで過ごす」「学校でクラブ活動や学級活動」である。

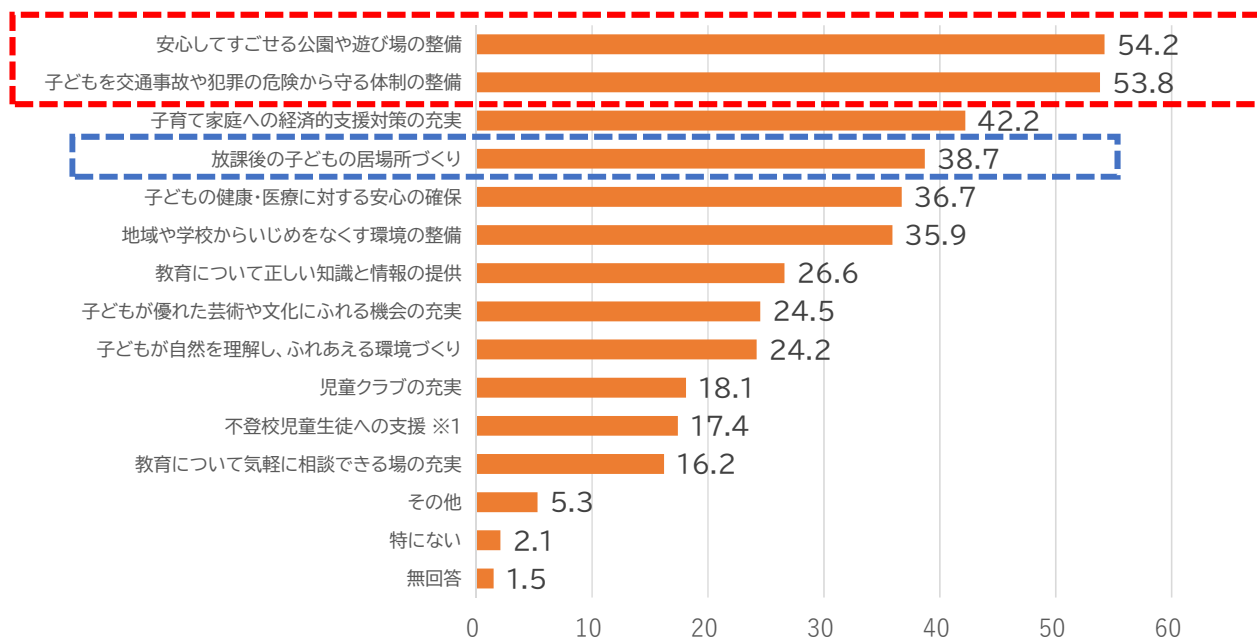
放課後の子どもたちの居場所づくりに関することに期待することは何ですか。(あてはまる番号3つまでに○)
※対象:小学生の保護者 <回答者数=714>



場や見守りとして「安全・安心」が最も求められ、体験活動、習慣等が次に高く求められている。

今後、つくば市では、特にどのような事業や対策に力を入れてほしいですか。(あてはまる番号すべてに○)

※対象:小学生の保護者 <回答者数=714>



今後の検討の方向性(論点整理)案

■放課後の居場所の利用可能性(どれだけ多くの子が利用可能か)について

- ・ 待機児童が発生している、又は、公営の放課後児童クラブ利用希望者が利用できない地域(小学校区)がある
- ・ 預かりニーズの高さにより児童館の一般来館者が多く、児童館の空間が利用希望人数に対して不足している地域がある
- ・ 保護者の就労等に関わらず利用できる居場所がない小学校区がある
- ・ 放課後支援員などの人材確保

■遊びや体験・活動など過ごし方の選択肢について

- ・ 児童館や交流ひろばの有無、放課後子供教室の開催頻度の違いによって、遊びや体験・活動の機会の有無や活動環境が地域ごとに異なり、過ごし方の選択肢に差が生じている。
- ・ 今後の活動継続のために地域人材の確保が必要

居場所

放課後の時間を安全に過ごせる場としての機能

児童クラブ

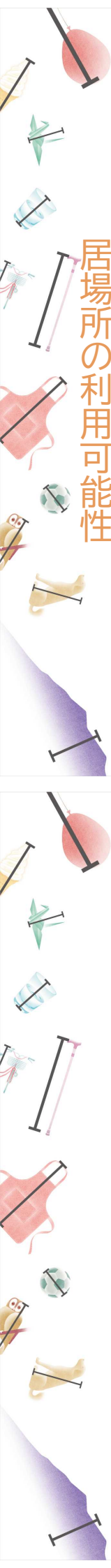
児童館
(一般来館)

アフタースクール

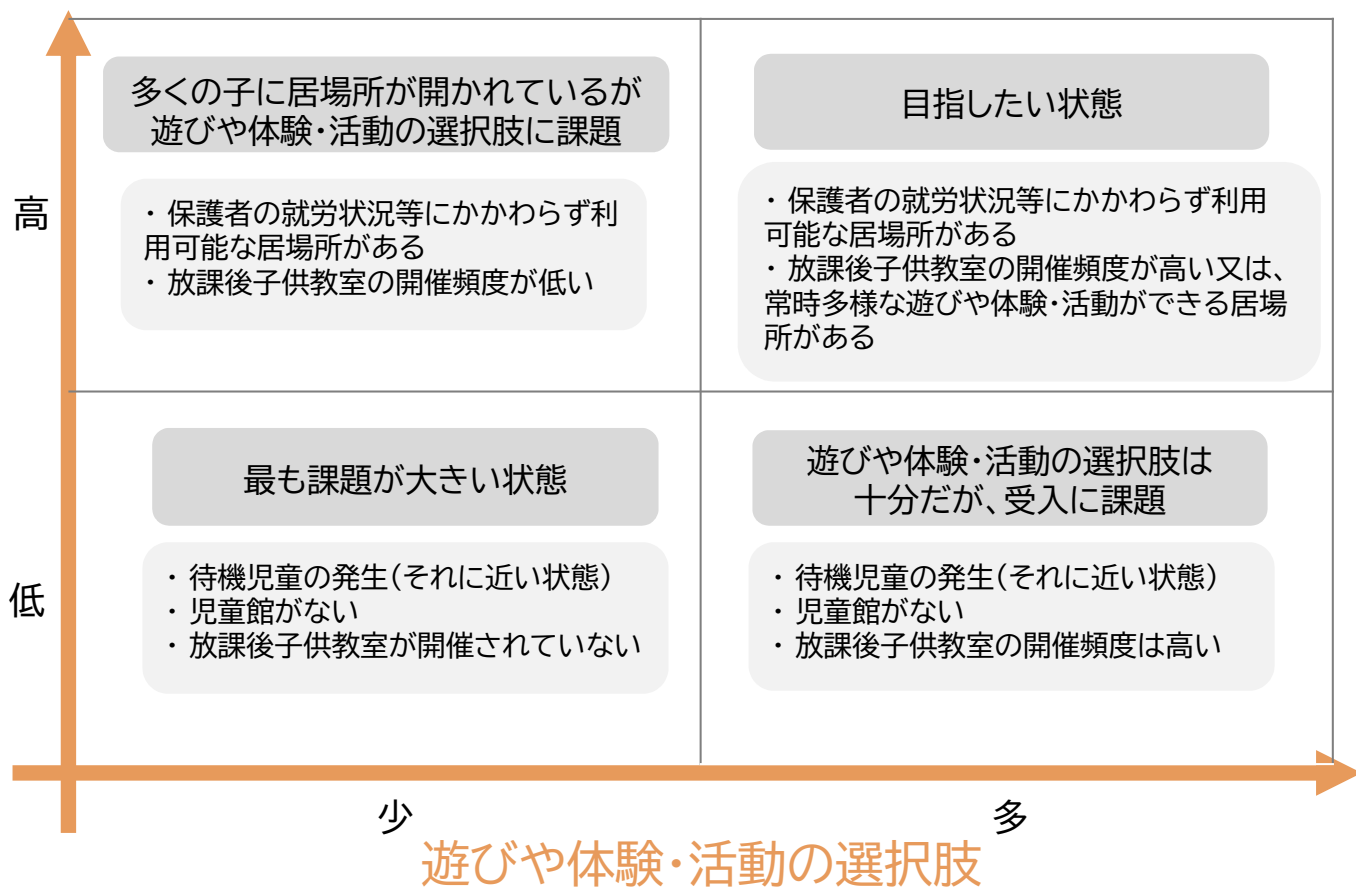
放課後子供教室
(交流ひろば含む)

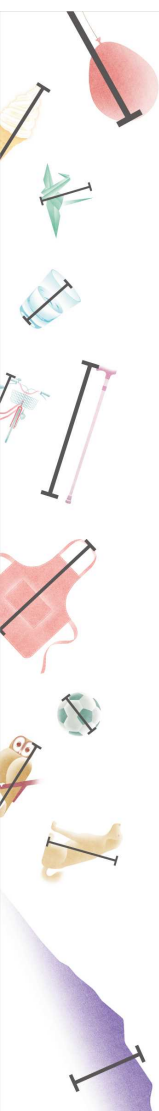
遊びや体験・活動の機会

好きなこと、やりたいことを見つけるきっかけとして、様々な遊びや体験・活動の機会を提供する機能



居場所の利用可能性





06 今後のスケジュール案

06 今後のスケジュール案

令和8年 9月末（候補日：9月28日(月)AM 29日(火)PM）

第二回会議

・つくば市の放課後の目指す姿

11月上旬 第三回会議

・つくば市の放課後の目指す姿

・目指す姿の実現のために必要な対応策や方針について

12月下旬 第四回会議

・目指す姿の実現のために必要な対応策や方針について

令和9年 2月中下旬 第五回会議

・つくば市の放課後の目指す姿、その実現のための方針案とりまとめ

5月 第六回会議

・つくば市の放課後の目指す姿、その実現のための方針案とりまとめ

7月 第七回会議

・最終とりまとめ

5章 学校別の将来推計

将来の適正配置を検討するにあたり、予め学校別の児童・生徒数の将来推計を行います。将来推計は、「推移グラフ及び表」を用いたものと、「推移図」で示したものに整理します。推移グラフ及び表は各学校別にパターン化して記載します。

推移グラフ及び表の記載内容の理解を図ってもらうために、最初にこれらの「構成と概要」の説明を行います。

1. 構成と概要

学校別に次の内容を記載しており事例を挙げて説明します。

- (1) 基本情報
- (2) 児童生徒・学級数の「推移グラフ」
- (3) 児童生徒・学級数の「推移表」

(1) 基本情報

学校別の基本情報は、次の事例に示すように①から⑭まであります。それぞれの概要を下記に記述します。

■ 基本情報の事例（大曾根小の場合を例示）

①所在地	大曾根 2917	⑤ R6 年度児童数	538	⑨ R6 年度最大保有普通教室数	28
②指定学校変更制度	なし	⑥ R6 年度学級数	普 18 特 6	⑩ R6 年度保有特別支援教室数	2
③中学校区	大穂	⑦公務員宿舎関連	—	最大時使 用教室数 (R7 年度)	⑪普通 19
④隣接学区	吾妻・要・前野・ 栗原・秀峰筑波	⑧ T X 関連	—	特支	⑫特支教室 2
				⑬普通教室転用	2
				⑭不足教室数	—

- ①【所在地】学校所在地の住所
- ②【指定学校変更制度】指定学校変更制度対象校の場合は変更先学区
- ③【中学校区（小学校）、小学校区（中学校）】小学校は中学校区、中学校は小学校区について記載
- ④【隣接学区（学園）】隣接している学区名、学園名
- ⑤【R6 年度児童・生徒数】R6.5.1 特別支援教室在籍者を含む児童・生徒の総数
- ⑥【R6 年度学級数】R6.5.1 現在の普通学級と特別支援学級の数
※学級規模については、小学校区の標準規模校を「学級数 12～24 学級（学年2～4 学級）」、中学校の標準規模校を「学級数 12～18 学級（学年4～6 学級）」また、義務教育学校の標準規模校を「学級数 18～45 学級（学年2～5 学級）」とする
- ⑦【公務員宿舎関連】学区内に公務員宿舎廃止の対象地を含む場合に地区名を記載
- ⑧【TX 関連】学区内につくばエクスプレス沿線の土地区画整理事業地を含む場合に、地区名を記載
- ⑨【R6 年度最大保有普通教室数】R6 年度の普通教室と普通教室に転用可能な教室の総数
- ⑩【R6 年度保有特別支援教室数】R6 年度の特別支援教室専用として設置している教室の総数
- ⑪【最大時使用教室数・普通】最大使用時に必要な普通教室数
- ⑫【最大時使用教室数・特別支援】最大使用時に特別支援教室専用として使用する教室の総数

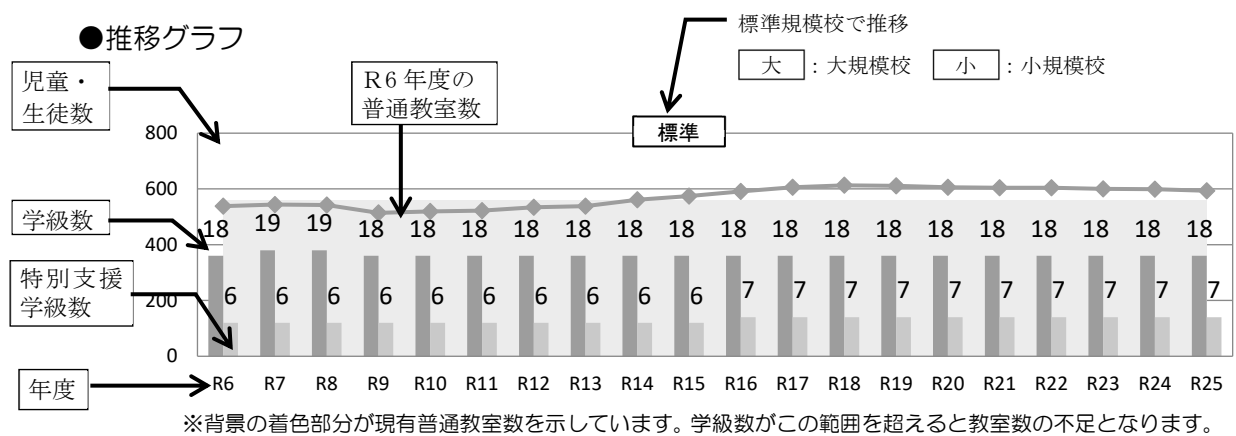
- ⑬【最大時使用教室数・特別支援（普通教室転用）】最大使用時に特別支援教室専用として設置している教室が足りず普通教室を転用する教室数（転用時は普通教室1教室を特別支援教室2教室として利用）
- ⑭【不足教室数】最大使用時の普通教室数と特別支援教室専用として転用する普通教室が
- ⑨【R6年度最大保有普通教室数】を超える場合にその数を記載

(2) 児童生徒・学級数の推移グラフ及び表

将来の児童生徒・学級数の推移を次の事例のようにグラフと表で示しています。

■児童生徒・学級数の推移グラフ及び表の事例（大曽根小の場合）

- ①「推移グラフ」は、本計画の推計による1年毎の全校児童・生徒数（特別支援学級在籍者を含む）及び学級数を示しています。
- ②「推移表」は、本計画の推計による5年毎の学年別児童・生徒数（特別支援学級在籍者を含む）及び学級数を示しています。



●推移表

年度 学年	R6年度		R10年度		R15年度		R20年度		R25年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	77	3	86	3	101	3	100	3	96	3
2年	80	3	85	3	104	3	102	3	102	3
3年	77	2	80	3	103	3	101	3	97	3
4年	116	4	97	3	94	3	102	3	101	3
5年	90	3	85	3	87	3	101	3	98	3
6年	98	3	86	3	85	3	100	3	99	3
計	538	18	519	18	574	18	606	18	593	18

(3) 学級数の算出方法

今回の見直しにあたり各学校の学級数は次の基準により算出しています。

【令和6年度】

- ・小学校1年生～5年生は35人学級とした。
- ・小学校6年生及び中学生は茨城県学級編制弾力化の基準を適用した。（別表参照）

【令和7年度以降】

- ・小学生は35人学級とした。
- ・中学生は令和8年度以降、1年生から順次35人学級となる。令和8年度は1年生、令和9年度は1～2年生、令和10年度以降は1～3年生で35人学級とした。それ以外は茨城県学級編制弾力化の基準を適用した。（別表参照）

■(別表)学級編制弾力化の早見表

在籍児童・生徒数 (人)	学級編制の弾力化 (弾力化後の学級数)	標準学級数 (40人編制)
1～40	1	1
41～80	2	2
81～107	3	3
108～120	4	
121～142	4	4
143～160	5	
161～177	5	5
178～200	6	

児童数及び生徒数が少ない場合は次の基準により複式学級とした。

- ・小学校1年生を含む連続した学年で8人以内
- ・小学校1年生を含まない連続した学年で16人以内
- ・中学校において連続した学年で8人以内

2. 児童・生徒数推計の方法

つくば市が実施している人口推計（コーホート要因法）を使用し、小中学校区単位で男女別・各歳別の人口を推計し、各歳人口を基に児童・生徒数を推計しました。

- 令和5年(2023年)10月1日現在の住民基本台帳人口を基準として、行政区ごとに推計
- コーホート要因法では、 $t+1$ 年の人口は t 年の人口に、人口変動の3要素（出生・死亡・移動）を乗じて算出

	t 年	$t+1$ 年	$t+2$ 年	...
0歳	$N(0 \text{ 歳 } t \text{ 年})$	$N(0 \text{ 歳 } t+1 \text{ 年})$	$N(0 \text{ 歳 } t+2 \text{ 年})$	...
1歳	$N(1 \text{ 歳 } t \text{ 年})$	$N(1 \text{ 歳 } t+1 \text{ 年})$	$N(1 \text{ 歳 } t+2 \text{ 年})$	...
2歳	$N(2 \text{ 歳 } t \text{ 年})$	$N(2 \text{ 歳 } t+1 \text{ 年})$	$N(2 \text{ 歳 } t+2 \text{ 年})$	...
...	...	...	...	...

※ $N(1 \text{ 歳 } t+1 \text{ 年}) = N(0 \text{ 歳 } t \text{ 年}) \times (\text{生残率} + \text{純移動率})$

※ $N(0 \text{ 歳 } t+1 \text{ 年}) = 15 \sim 49 \text{ 歳の女性人口}(t+1 \text{ 年}) \times \text{子ども女性比}$

- つくば市の現状を反映するため、移動率について行政区ごとに転入・転出に分けた計算、子ども女性比の行政区ごとの算出及び地域的な補正、TX沿線開発地区の移動をビルドアップ曲線への近似で算出、新築マンションの情報反映など、市独自の考え方を取り入れた推計を実施

※ただし、新築マンションの計画等が決定していないものについては未反映のため、今後の動向を注視し、適宜推計の見直しを行う必要がある。

- 算出した推計値から、学区ごとに、令和6年度現在の児童生徒数及び各年齢の未就学児童数との差異について補正を実施
- 小学6年生から7年生(中学1年生)の移行時には、私立・県立中学受験の学校ごとの実績を考慮して推計
- 特別支援学級数は、学校ごとに現在の児童生徒数と特別支援学級の割合から算出して推計
- 指定学校変更可能区域による指定学校の変更について実績を考慮して推計

3. 小学校区の将来推計

(1) 小学校の推移グラフ及び表

① 大曾根小学校【大穂学園】

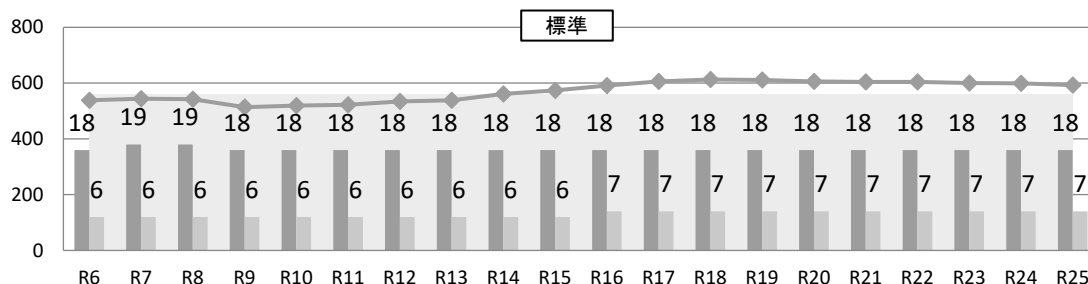
ア 基本情報

所在地	大曾根 2917
指定学校変更制度	なし
中学校区	大穂
隣接学区	吾妻・要・前野・栗原・秀峰筑波

R6 年度児童数	538
R6 年度学級数	普 18 特 6
公務員宿舍関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			28
R6 年度保有特別支援教室数			2
最大時使 用教室数 (R7 年度)	普通		19
	特支	特支教室	2
		普通教室転用	
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		77	3	86	3	101	3	100	3	96	3
2 年		80	3	85	3	104	3	102	3	102	3
3 年		77	2	80	3	103	3	101	3	97	3
4 年		116	4	97	3	94	3	102	3	101	3
5 年		90	3	85	3	87	3	101	3	98	3
6 年		98	3	86	3	85	3	100	3	99	3
計		538	18	519	18	574	18	606	18	593	18

② 前野小学校【大穂学園】

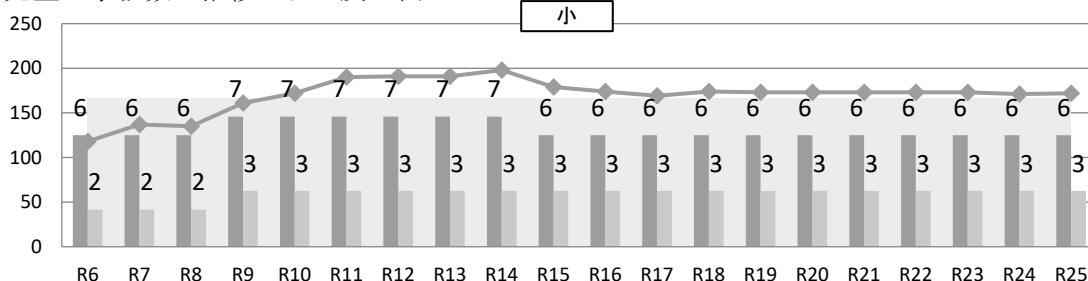
ア 基本情報

所在地	前野 1367
指定学校変更制度	なし
中学校区	大穂
隣接学区	要・沼崎・今鹿島・吉沼・大曾根・秀峰筑波

R6 年度児童数	118
R6 年度学級数	普 6 特 2
公務員宿舍関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			8
R6 年度保有特別支援教室数			1
最大時使 用教室数 (R9 年度)	普通	7	
	特支	特支教室	1
		普通教室転用	1
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		28	1	32	1	28	1	28	1	28	1
2 年		14	1	48	2	28	1	28	1	29	1
3 年		22	1	20	1	28	1	29	1	28	1
4 年		20	1	28	1	29	1	29	1	29	1
5 年		22	1	29	1	32	1	30	1	29	1
6 年		12	1	15	1	34	1	29	1	29	1
計		118	6	172	7	179	6	173	6	172	6

③ 要小学校【大穂学園】

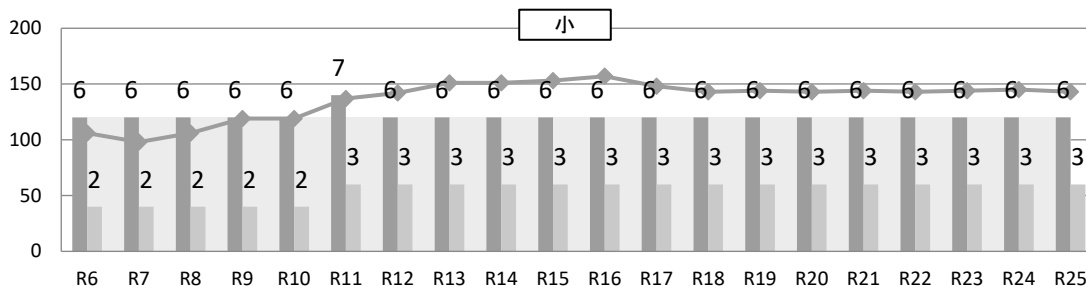
ア 基本情報

所在地	要 449-1
指定学校変更制度	なし
中学校区	大穂
隣接学区	沼崎・前野・大曾根・ 吾妻・春日学園・学園 の森

R6 年度児童数	106
R6 年度学級数	普 6 特 2
公務員宿舍関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			6
R6 年度保有特別支援教室数			2
最大時使 用教室数 (R11 年度)	普通	7	
	特支	特支教室	2
		普通教室転用	1
不足教室数		(7+1)-6=2 教室	

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	25	1	21	1	27	1	26	1	26	1
2 年	15	1	24	1	24	1	24	1	23	1
3 年	17	1	21	1	22	1	22	1	23	1
4 年	12	1	13	1	29	1	24	1	24	1
5 年	16	1	24	1	33	1	24	1	25	1
6 年	21	1	16	1	18	1	23	1	22	1
計	106	6	119	6	153	6	143	6	143	6

④ 吉沼小学校【大穂学園】

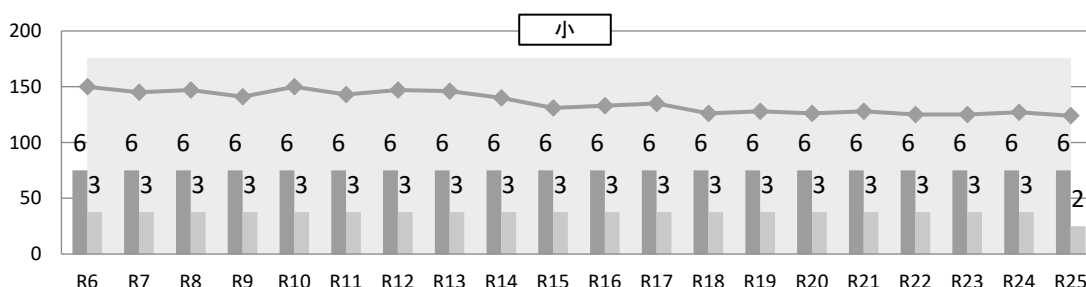
ア 基本情報

所在地	吉沼 1010
指定学校変更制度	今鹿島
中学校区	大穂
隣接学区	前野・今鹿島・上郷・ 秀峰筑波

R6 年度児童数	150
R6 年度学級数	普 6 特 3
公務員宿舍関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			14
R6 年度保有特別支援教室数			0
最大時使 用教室数 (R7 年度)	普通	6	
	特支	特支教室	0
		普通教室転用	2
不足教室数		—	

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	20	1	18	1	19	1	19	1	18	1
2 年	27	1	26	1	21	1	21	1	21	1
3 年	12	1	29	1	20	1	20	1	20	1
4 年	29	1	24	1	29	1	22	1	21	1
5 年	28	1	24	1	21	1	22	1	22	1
6 年	34	1	29	1	21	1	22	1	22	1
計	150	6	150	6	131	6	126	6	124	6

⑤ 沼崎小学校【豊里学園】

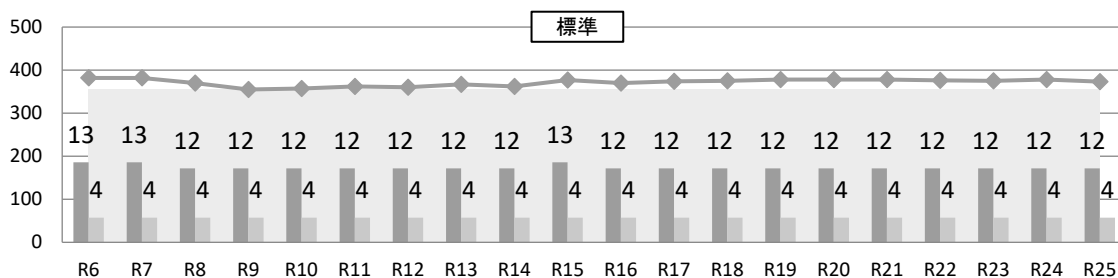
ア 基本情報

所在地	沼崎 1650
指定学校変更制度	今鹿島
中学校区	豊里
隣接学区	上郷・島名・要・前野・ 今鹿島・研究学園・学 園の森

R6 年度児童数	382
R6 年度学級数	普 13 特 4
公務員宿舍関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			25
R6 年度保有特別支援教室数			3
最大時使 用教室数 (R7 年度)	普通		13
	特支	特支教室	3
		普通教室転用	1
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		57	2	65	2	62	2	59	2	60	2
2 年		51	2	51	2	61	2	66	2	62	2
3 年		64	2	65	2	64	2	60	2	64	2
4 年		67	2	60	2	59	2	65	2	60	2
5 年		78	3	59	2	60	2	62	2	65	2
6 年		65	2	57	2	71	3	66	2	62	2
計		382	13	357	12	377	13	378	12	373	12

⑥ 今鹿島小学校【豊里学園】

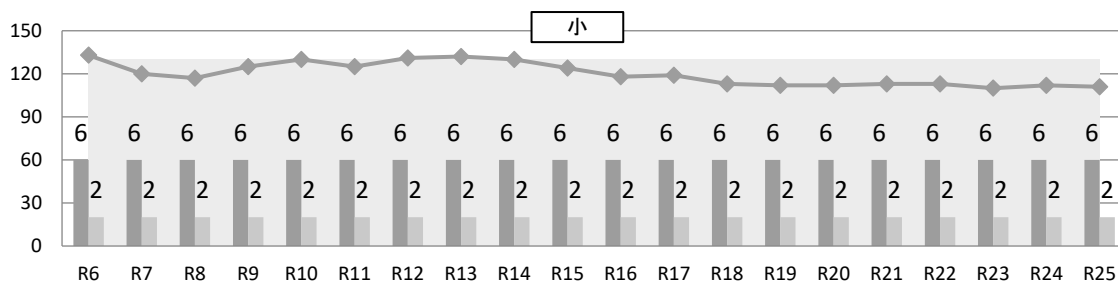
ア 基本情報

所在地	今鹿島 1762
指定学校変更制度	沼崎
中学校区	豊里
隣接学区	上郷・沼崎・前野・吉 沼

R6 年度児童数	133
R6 年度学級数	普 6 特 2
公務員宿舍関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			13
R6 年度保有特別支援教室数			0
最大時使 用教室数 (R7 年度)	普通	6	
	特支	特支教室	0
		普通教室転用	1
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		15	1	25	1	18	1	18	1	17	1
2 年		22	1	26	1	18	1	18	1	18	1
3 年		20	1	20	1	19	1	18	1	18	1
4 年		19	1	18	1	25	1	19	1	19	1
5 年		22	1	17	1	19	1	19	1	19	1
6 年		35	1	24	1	25	1	20	1	20	1
計		133	6	130	6	124	6	112	6	111	6

⑦ 上郷小学校【豊里学園】

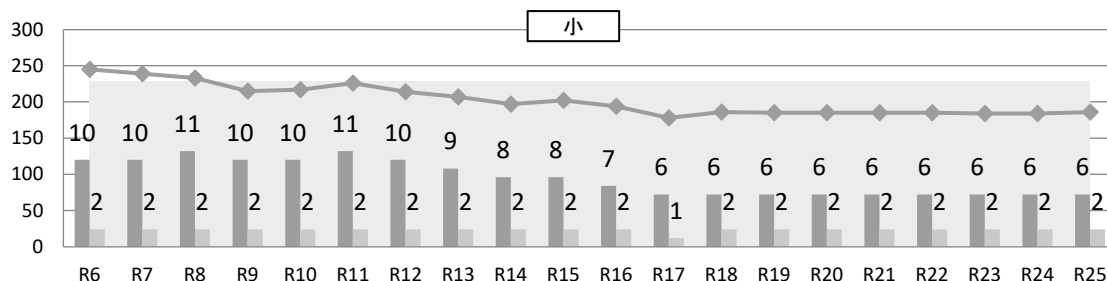
ア 基本情報

所在地	上郷 2499
指定学校変更制度	なし
中学校区	豊里
隣接学区	真瀬・島名・沼崎・今鹿島・吉沼

R6 年度児童数	245
R6 年度学級数	普 10 特 2
公務員宿舍関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			19
R6 年度保有特別支援教室数			5
最大時使 用教室数 (R8 年度)	普通		11
	特支	特支教室	2
		普通教室転用	0
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		37	1	39	2	31	1	29	1	31	1
2 年		30	1	28	1	30	1	30	1	30	1
3 年		39	2	41	2	31	1	30	1	29	1
4 年		46	2	38	2	23	1	31	1	31	1
5 年		47	2	38	2	44	2	32	1	33	1
6 年		46	2	33	1	43	2	33	1	32	1
計		245	10	217	10	202	8	185	6	186	6

⑧ 谷田部小学校【輝翔学園】

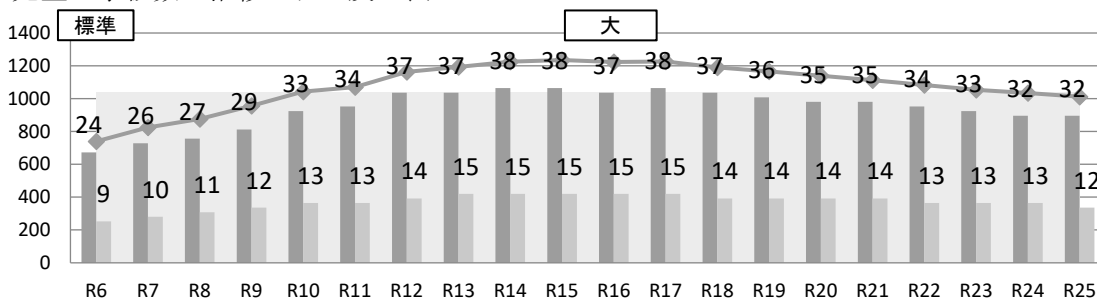
ア 基本情報

所在地	谷田部 2938
指定学校変更制度	なし
中学校区	谷田部
隣接学区	真瀬・島名・香取台・柳橋・手代木南・小野川・荻崎第一・谷田部南・みどりの南・みどりの学園

R6 年度児童数	740
R6 年度学級数	普 24 特 9
公務員宿舍関連	—
T X 関連	島名・福田坪地区（陣場）

R6 年度最大保有普通教室数			37
R6 年度保有特別支援教室数			5
最大時使 用教室数 (R14 年度)	普通		38
	特支	特支教室	5
		普通教室転用	
不足教室数			(38+5)-37=6 教室

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		113	4	199	6	195	6	174	5	155	5
2 年		155	5	182	6	203	6	180	6	161	5
3 年		119	4	174	5	207	6	185	6	166	5
4 年		112	4	178	6	221	7	195	6	170	5
5 年		134	4	132	4	195	6	201	6	177	6
6 年		107	3	178	6	214	7	204	6	183	6
計		740	24	1043	33	1235	38	1139	35	1012	32

⑨ 柳橋小学校【輝翔学園】

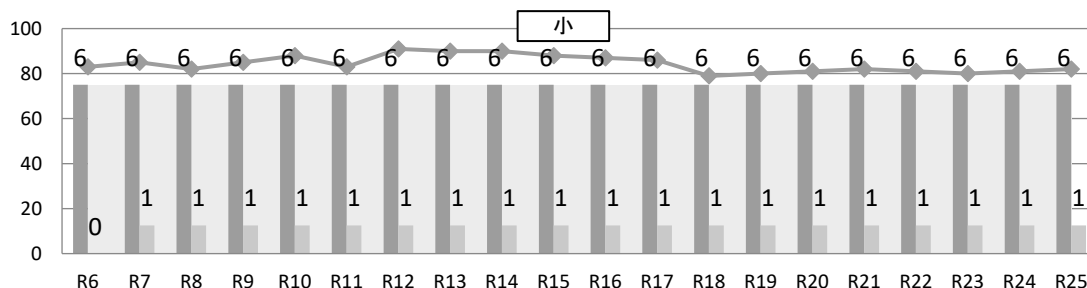
ア 基本情報

所在地	柳橋 360
指定学校変更制度	なし
中学校区	谷田部
隣接学区	谷田部・香取台・島名・研究学園・葛城・手代木南

R6 年度児童数	83
R6 年度学級数	普 6
公務員宿舍関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			6
R6 年度保有特別支援教室数			1
最大時使 用教室数 (R7 年度)	普通		6
	特支	特支教室	1
		普通教室転用	0
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	10	1	15	1	14	1	14	1	13	1
2 年	17	1	14	1	12	1	13	1	13	1
3 年	12	1	14	1	12	1	12	1	13	1
4 年	12	1	14	1	20	1	13	1	12	1
5 年	16	1	12	1	13	1	13	1	15	1
6 年	16	1	19	1	17	1	16	1	16	1
計	83	6	88	6	88	6	81	6	82	6

⑩ 真瀬小学校【高山学園】

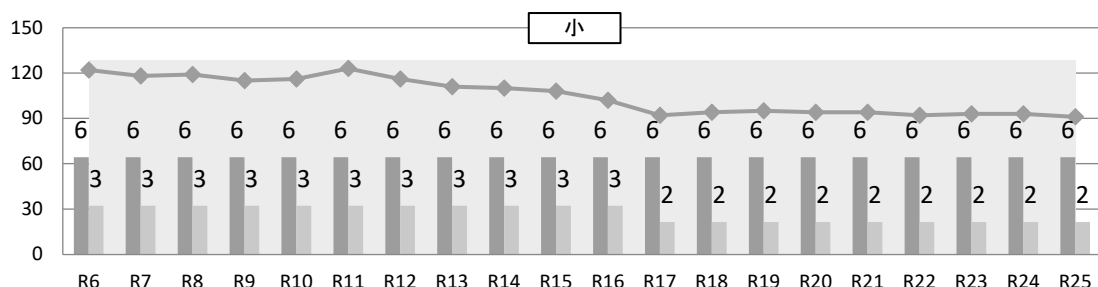
ア 基本情報

所在地	真瀬 2103
指定学校変更制度	なし
中学校区	高山
隣接学区	谷田部・島名・上郷・みどりの学園

R6 年度児童数	122
R6 年度学級数	普 6 特 3
公務員宿舍関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			12
R6 年度保有特別支援教室数			3
最大時使 用教室数 (R7 年度)	普通	6	
	特支	特支教室	3
		普通教室転用	0
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



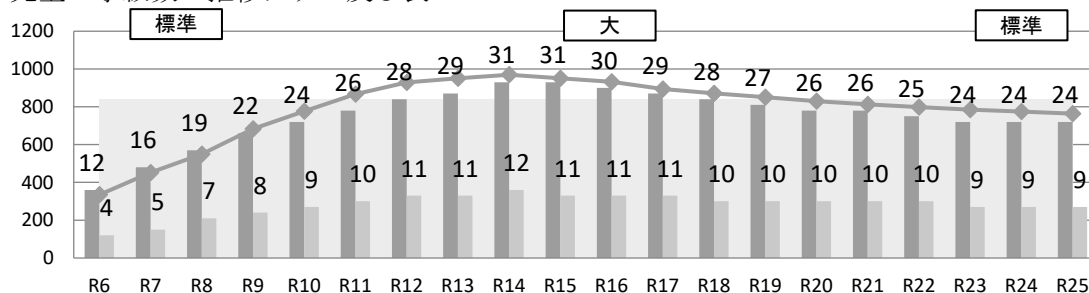
学年	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	20	1	20	1	16	1	15	1	14	1
2 年	15	1	20	1	15	1	15	1	15	1
3 年	19	1	18	1	16	1	16	1	15	1
4 年	22	1	20	1	15	1	15	1	15	1
5 年	18	1	22	1	25	1	16	1	16	1
6 年	28	1	16	1	21	1	17	1	16	1
計	122	6	116	6	108	6	94	6	91	6

⑪ 島名小学校【高山学園】

ア 基本情報

所在地	島名 537-1	R6 年度児童数	335	R6 年度最大保有普通教室数	28
指定学校変更制度	谷田部	R6 年度学級数	普 12 特 4	R6 年度保有特別支援教室数	3
中学校区	高山	公務員宿舍関連	—	最大時使 用教室数 (R14 年度)	普通 31 特支 特支教室 3 普通教室転用 5
隣接学区	谷田部・真瀬・上郷・ 沼崎・研究学園・柳 橋・葛城・香取台	T X 関連	上河原崎・中 西地区（かみ かわ、高山、 万博公園西）	不足教室数	(31+5)-28=8 教室

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



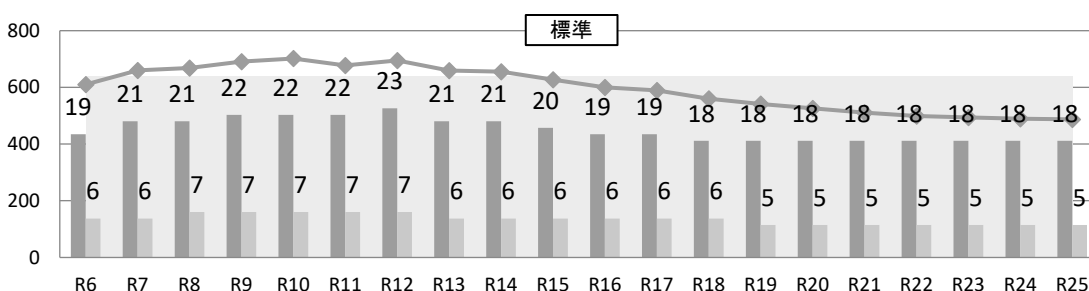
学年	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	77	3	158	5	145	5	126	4	118	4
2 年	70	2	165	5	150	5	131	4	123	4
3 年	62	2	134	4	153	5	135	4	124	4
4 年	40	2	132	4	160	5	140	4	130	4
5 年	52	2	98	3	178	6	146	5	134	4
6 年	34	1	89	3	165	5	152	5	135	4
計	335	12	776	24	951	31	830	26	764	24

⑫ 香取台小学校【高山学園】

ア 基本情報

所在地	島名 1716	R6 年度児童数	610	R6 年度最大保有普通教室数	28
指定学校変更制度	なし	R6 年度学級数	普 19 特 6	R6 年度保有特別支援教室数	4
中学校区	高山	公務員宿舍関連	—	最大時使 用教室数 (R12 年度)	普通 23 特支 特支教室 4 普通教室転用 2
隣接学区	島名・柳橋・谷田部	T X 関連	島名・福田坪 地区（香取 台、諏訪）	不足教室数	—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	96	3	118	4	92	3	81	3	76	3
2 年	114	4	121	4	98	3	80	3	78	3
3 年	109	3	102	3	101	3	86	3	80	3
4 年	100	3	139	4	117	4	86	3	82	3
5 年	98	3	100	3	97	3	95	3	83	3
6 年	93	3	122	4	122	4	98	3	88	3
計	610	19	702	22	627	20	526	18	487	18

⑬ 葛城小学校【光輝学園】

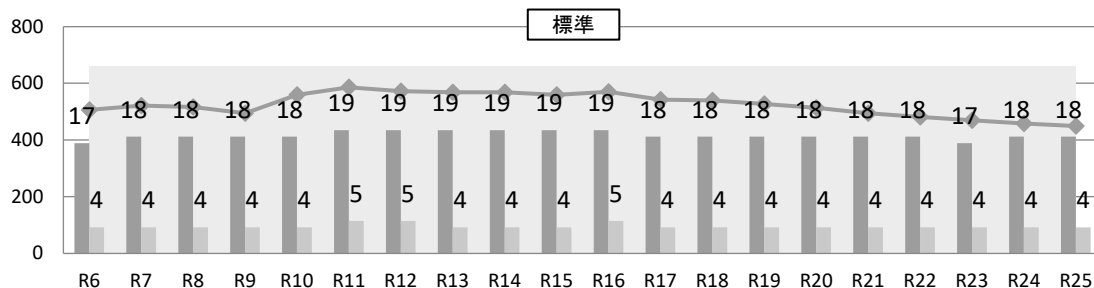
ア 基本情報

所在地	荻間 689
指定学校変更制度	松代
中学校区	手代木
隣接学区	島名・柳橋・手代木南・松代・竹園西・吾妻・春日学園・研究学園

R6 年度児童数	506
R6 年度学級数	普 17 特 4
公務員宿舍関連	—
T X 関連	葛城地区（学園南）

R6 年度最大保有普通教室数			29
R6 年度保有特別支援教室数			4
最大時使 用教室数 (R11 年度)	普通	19	
	特支	特支教室	4
		普通教室転用	1
不足教室数		—	

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		95	3	81	3	93	3	79	3	72	3
2 年		74	3	99	3	95	3	83	3	73	3
3 年		80	3	96	3	95	3	84	3	72	3
4 年		100	3	100	3	86	3	85	3	77	3
5 年		83	3	99	3	111	4	90	3	75	3
6 年		74	2	84	3	79	3	92	3	80	3
計		506	17	559	18	559	19	513	18	449	18

⑭ 手代木南小学校【光輝学園】

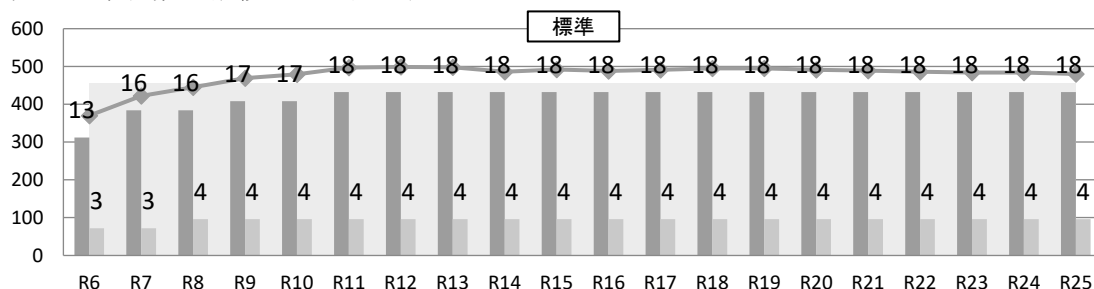
ア 基本情報

所在地	松代 4-24
指定学校変更制度	なし
中学校区	手代木
隣接学区	松代・葛城・柳橋・谷田部・小野川・二の宮・竹園西・吾妻

R6 年度児童数	370
R6 年度学級数	普 13 特 3
公務員宿舍関連	松代 4 丁目、5 丁目
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			19
R6 年度保有特別支援教室数			4
最大時使 用教室数 (R11 年度)	普通		18
	特支	特支教室	4
		普通教室転用	0
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		71	2	84	3	79	3	76	3	76	3
2 年		57	2	75	3	82	3	80	3	77	3
3 年		75	3	93	3	83	3	80	3	79	3
4 年		51	2	85	3	77	3	84	3	81	3
5 年		67	2	76	3	82	3	84	3	83	3
6 年		49	2	66	2	89	3	87	3	84	3
計		370	13	479	17	492	18	491	18	480	18

⑮ 松代小学校【光輝学園】

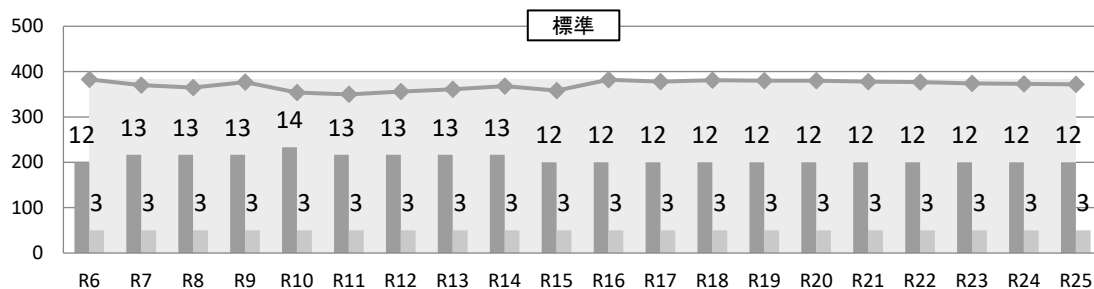
ア 基本情報

所在地	松代 3-3-1
指定学校変更制度	なし
中学校区	手代木
隣接学区	手代木南・葛城

R6 年度児童数	383
R6 年度学級数	普 12 特 3
公務員宿舍関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			23
R6 年度保有特別支援教室数			1
最大時使 用教室数 (R10 年度)	普通	14	
	特支	特支教室	1
		普通教室転用	1
不足教室数		—	

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		50	2	39	2	62	2	61	2	60	2
2 年		71	2	71	3	64	2	63	2	61	2
3 年		63	2	58	2	64	2	63	2	62	2
4 年		60	2	57	2	58	2	64	2	62	2
5 年		65	2	54	2	69	2	64	2	63	2
6 年		74	2	75	3	41	2	65	2	64	2
計		383	12	354	14	358	12	380	12	372	12

⑯ 小野川小学校【洞峰学園】

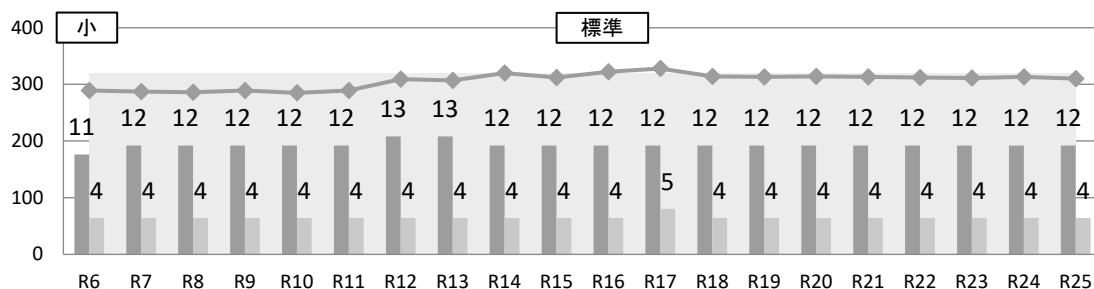
ア 基本情報

所在地	館野 731
指定学校変更制度	なし
中学校区	谷田部東
隣接学区	谷田部・手代木南・荻崎第一・二の宮・東・桜南

R6 年度児童数	289
R6 年度学級数	普 11 特 4
公務員宿舍関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			20
R6 年度保有特別支援教室数			0
最大時使 用教室数 (R12 年度)	普通	13	
	特支	特支教室	0
		普通教室転用	2
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		52	2	47	2	53	2	58	2	53	2
2 年		36	1	58	2	55	2	53	2	55	2
3 年		47	2	40	2	53	2	53	2	49	2
4 年		55	2	53	2	68	2	49	2	52	2
5 年		44	2	50	2	39	2	53	2	49	2
6 年		55	2	37	2	44	2	48	2	52	2
計		289	11	285	12	312	12	314	12	310	12

⑪ 二の宮小学校【洞峰学園】

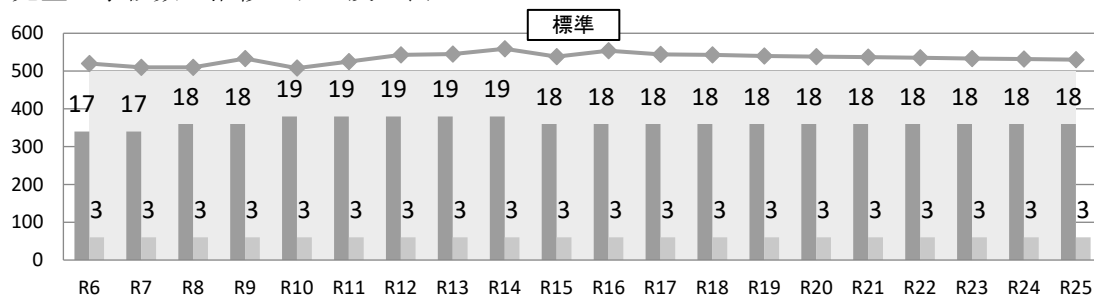
ア 基本情報

所在地	二の宮 4-11
指定学校変更制度	竹園西
中学校区	谷田部東
隣接学区	小野川・手代木南・竹園西・東

R6 年度児童数	520
R6 年度学級数	普 17 特 3
公務員宿舍関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			25
R6 年度保有特別支援教室数			3
最大時使 用教室数 (R10 年度)	普通		19
	特支	特支教室	3
		普通教室転用	0
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		65	2	72	3	88	3	85	3	85	3
2 年		75	3	107	4	88	3	88	3	86	3
3 年		94	3	78	3	91	3	89	3	87	3
4 年		88	3	91	3	92	3	91	3	89	3
5 年		85	3	74	3	102	3	91	3	91	3
6 年		113	3	86	3	77	3	94	3	92	3
計		520	17	508	19	538	18	538	18	530	18

⑫ 東小学校【洞峰学園】

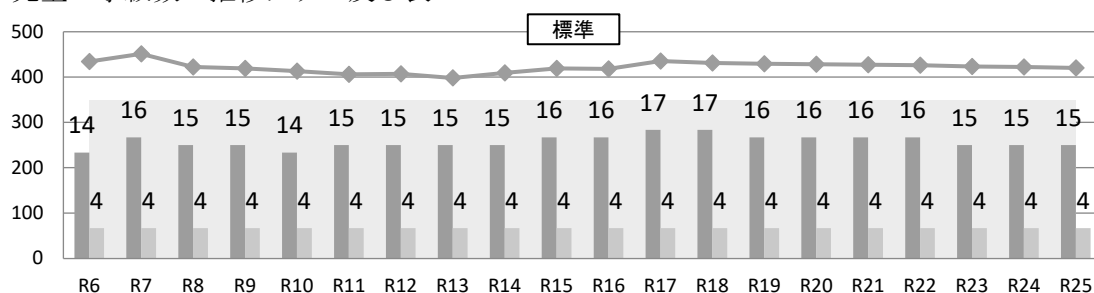
ア 基本情報

所在地	東 2-24
指定学校変更制度	並木
中学校区	谷田部東
隣接学区	小野川・二の宮・竹園西・並木・桜南

R6 年度児童数	434
R6 年度学級数	普 14 特 4
公務員宿舍関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			21
R6 年度保有特別支援教室数			0
最大時使 用教室数 (R17 年度)	普通	17	
	特支	特支教室	0
		普通教室転用	2
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		77	3	69	2	70	2	69	2	68	2
2 年		60	2	62	2	71	3	70	2	68	2
3 年		75	2	59	2	72	3	71	3	70	2
4 年		67	2	82	3	75	3	72	3	71	3
5 年		87	3	76	3	56	2	72	3	71	3
6 年		68	2	65	2	75	3	74	3	72	3
計		434	14	413	14	419	16	428	16	420	15

⑩ 栄小学校【桜学園】

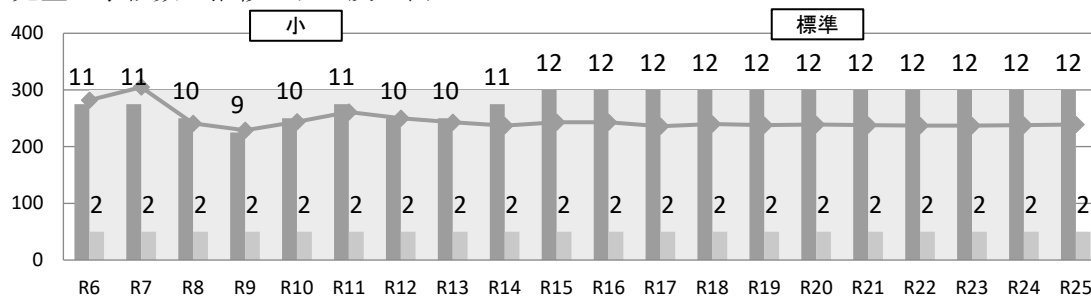
ア 基本情報

所在地	金田 54
指定学校変更制度	桜南
中学校区	桜
隣接学区	栗原・九重・桜南

R6 年度児童数	282
R6 年度学級数	普 11 特 2
公務員宿舍関連	—
T X 関連	中根・金田台地区（さくらの森）

R6 年度最大保有普通教室数			12
R6 年度保有特別支援教室数			2
最大時使 用教室数 (R15 年度)	普通		12
	特支	特支教室	2
		普通教室転用	0
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		61	2	39	2	38	2	40	2	38	2
2 年		43	2	33	1	40	2	38	2	39	2
3 年		31	1	45	2	39	2	38	2	40	2
4 年		56	2	49	2	36	2	41	2	40	2
5 年		42	2	46	2	48	2	41	2	40	2
6 年		49	2	32	1	42	2	41	2	42	2
計		282	11	244	10	243	12	239	12	239	12

⑪ 九重小学校【桜学園】

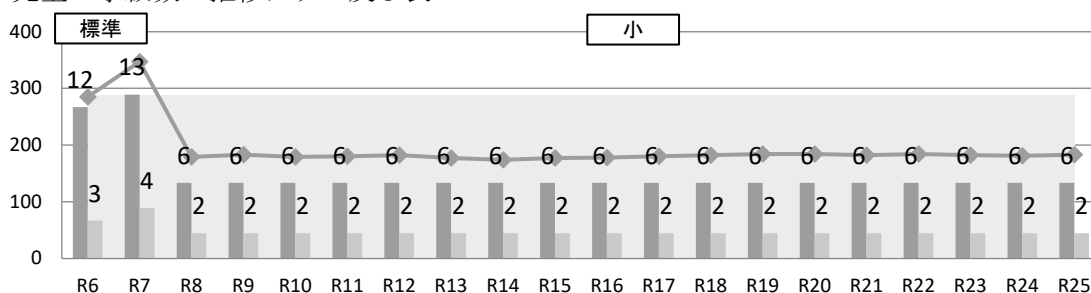
ア 基本情報

所在地	上ノ室 2126
指定学校変更制度	竹園東
中学校区	桜
隣接学区	栄・栗原・吾妻・竹園東・並木・桜南

R6 年度児童数	285
R6 年度学級数	普 12 特 3
公務員宿舍関連	—
T X 関連	中根・金田台地区（流星台）

R6 年度最大保有普通教室数			13
R6 年度保有特別支援教室数			4
最大時使 用教室数 (R7 年度)	普通		13
	特支	特支教室	4
		普通教室転用	0
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		55	2	27	1	30	1	29	1	30	1
2 年		56	2	30	1	30	1	30	1	29	1
3 年		49	2	34	1	29	1	30	1	31	1
4 年		38	2	33	1	29	1	32	1	31	1
5 年		41	2	27	1	30	1	31	1	31	1
6 年		46	2	28	1	29	1	32	1	31	1
計		285	12	179	6	177	6	184	6	183	6

㉑ 栗原小学校【桜学園】

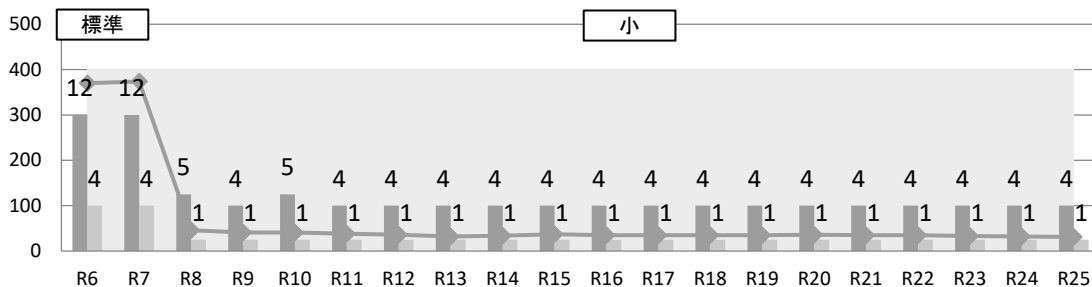
ア 基本情報

所在地	栗原 2018
指定学校変更制度	なし
中学校区	桜
隣接学区	大曽根・吾妻・九重・栄・秀峰筑波

R6 年度児童数	370
R6 年度学級数	普 12 特 4
公務員宿舎関連	—
T X 関連	中根・金田台地区（春風台）

R6 年度最大保有普通教室数			16
R6 年度保有特別支援教室数			1
最大時使 用教室数 (R7 年度)	普通		12
	特支	特支教室	1
		普通教室転用	
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		69	2	7	1	6	1	6	1	4	1
2 年		66	2	3	1	6	1	4	1	6	1
3 年		63	2	4		6		6		4	
4 年		56	2	9	1	6	1	6	1	6	1
5 年		61	2	9	1	5		7		4	
6 年		55	2	9	1	8	1	7	1	7	1
計		370	12	41	5	37	4	36	4	31	4

㉒ (仮称)中根・金田台地区小学校【桜学園】※令和 8 年 4 月開校予定

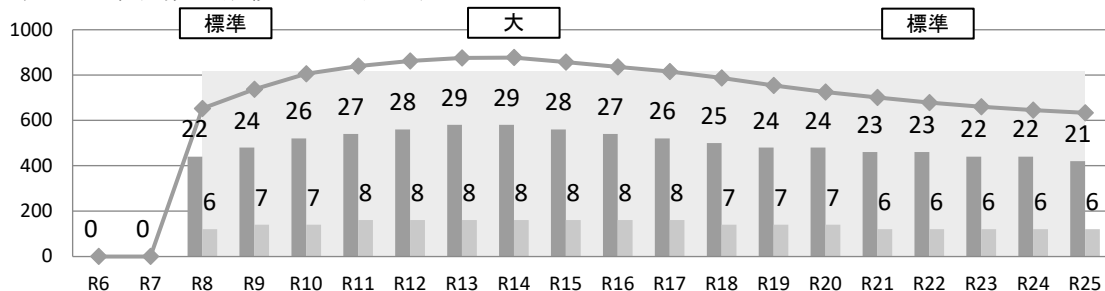
ア 基本情報

所在地	(春風台 16-1、17-1)
指定学校変更制度	—
中学校区	桜
隣接学区	栗原・栄・九重・吾妻

R6 年度児童数	—
R6 年度学級数	—
公務員宿舎関連	—
T X 関連	中根・金田台地区（春風台、桜の森、流星台）

R8 年度最大保有普通教室数			41
R8 年度保有特別支援教室数			6
最大時使 用教室数 (R13 年度)	普通		29
	特支	特支教室	6
		普通教室転用	1
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		—	—	144	5	134	4	107	4	98	3
2 年		—	—	154	5	137	4	112	4	100	3
3 年		—	—	136	4	146	5	118	4	104	3
4 年		—	—	133	4	146	5	122	4	107	4
5 年		—	—	124	4	145	5	130	4	111	4
6 年		—	—	114	4	149	5	136	4	113	4
計		—	—	805	26	857	28	725	24	633	21

㊸ 竹園東小学校【竹園学園】

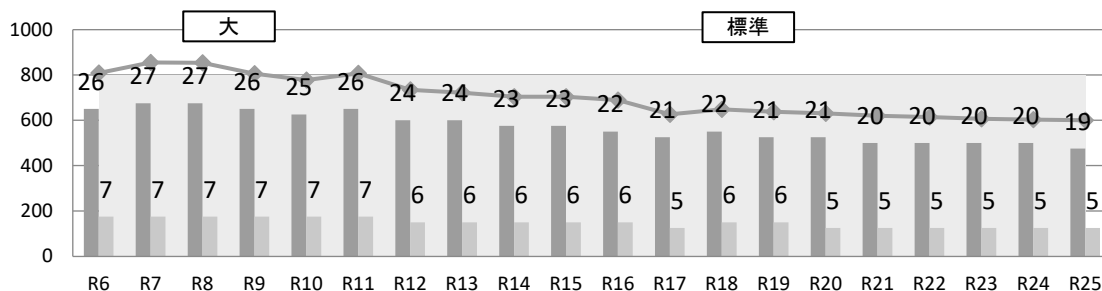
ア 基本情報

所在地	竹園 3-13
指定学校変更制度	九重
中学校区	竹園東
隣接学区	九重・並木・竹園西・吾妻

R6 年度児童数	808
R6 年度学級数	普 26 特 7
公務員宿舍関連	竹園 3 丁目
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			32
R6 年度保有特別支援教室数			11
最大時使 用教室数 (R7 年度)	普通		27
	特支	特支教室	7
		普通教室転用	0
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		151	5	123	4	103	3	97	3	92	3
2 年		118	4	113	4	108	4	99	3	96	3
3 年		139	4	129	4	112	4	103	3	99	3
4 年		150	5	129	4	86	3	107	4	101	3
5 年		124	4	160	5	169	5	111	4	104	3
6 年		126	4	123	4	126	4	113	4	108	4
計		808	26	777	25	704	23	630	21	600	19

㊹ 竹園西小学校【竹園学園】

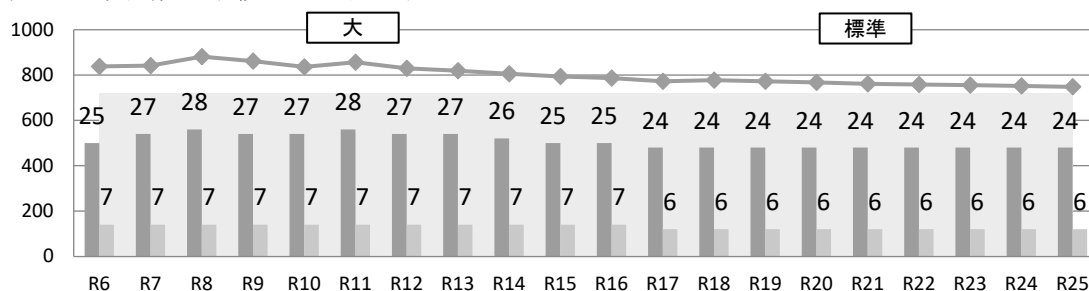
ア 基本情報

所在地	竹園 2-19-3
指定学校変更制度	なし
中学校区	竹園東
隣接学区	吾妻・竹園東・並木・東・二の宮・手代木南・葛城

R6 年度児童数	838
R6 年度学級数	普 25 特 7
公務員宿舍関連	竹園 1 丁目
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			36
R6 年度保有特別支援教室数			1
最大時使 用教室数 (R8 年度)	普通	28	
	特支	特支教室	1
		普通教室転用	3
不足教室数		—	

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		143	4	133	4	126	4	122	4	119	4
2 年		119	4	140	4	130	4	124	4	122	4
3 年		159	5	147	5	133	4	127	4	124	4
4 年		167	5	141	5	121	4	130	4	126	4
5 年		112	3	150	5	145	5	131	4	128	4
6 年		138	4	125	4	138	4	133	4	129	4
計		838	25	836	27	793	25	767	24	748	24

㊤ 桜南小学校【桜並木学園】

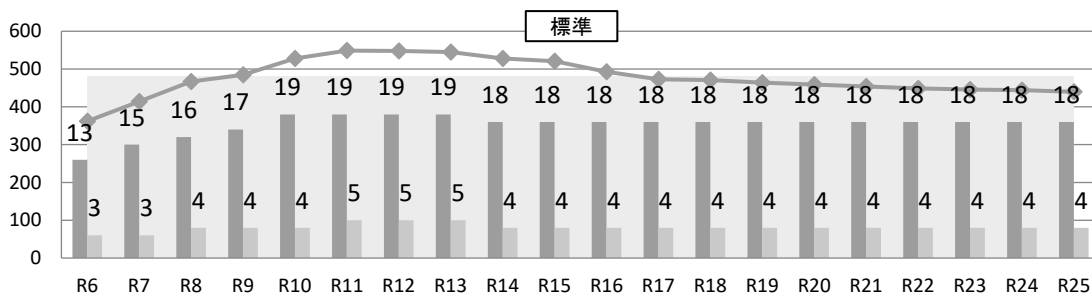
ア 基本情報

所在地	大角豆 789-1
指定学校変更制度	なし
中学校区	並木
隣接学区	小野川・東・並木・九重・栄

R6 年度児童数	362
R6 年度学級数	普 13 特 3
公務員宿舎関連	並木 3 丁目、4 丁目
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			24
R6 年度保有特別支援教室数			3
最大時使 用教室数 (R11 年度)	普通		19
	特支	特支教室	3
		普通教室転用	1
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		67	2	115	4	81	3	75	3	72	3
2 年		72	3	89	3	83	3	76	3	75	3
3 年		60	2	95	3	83	3	77	3	73	3
4 年		57	2	83	3	77	3	76	3	73	3
5 年		55	2	72	3	94	3	77	3	73	3
6 年		51	2	74	3	103	3	78	3	74	3
計		362	13	528	19	521	18	459	18	440	18

㊦ 並木小学校【桜並木学園】

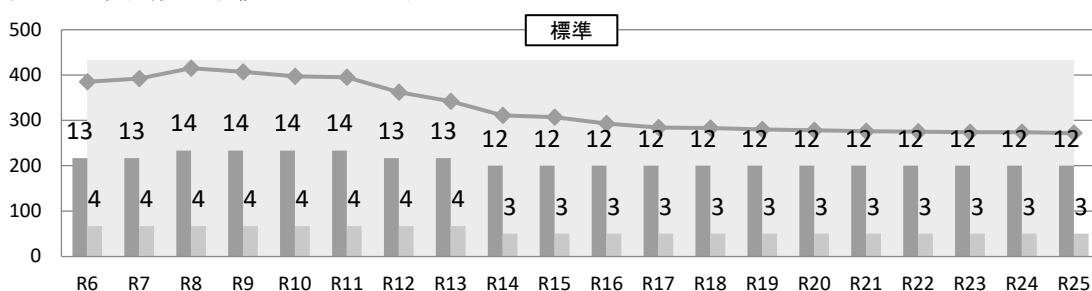
ア 基本情報

所在地	並木 2-12
指定学校変更制度	なし
中学校区	並木
隣接学区	東・竹園西・竹園東・九重・桜南

R6 年度児童数	385
R6 年度学級数	普 13 特 4
公務員宿舎関連	並木 2 丁目、4 丁目
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			26
R6 年度保有特別支援教室数			3
最大時使 用教室数 (R8 年度)	普通	14	
	特支	特支教室	3
		普通教室転用	1
不足教室数		—	

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		77	3	57	2	44	2	43	2	41	2
2 年		54	2	54	2	47	2	45	2	45	2
3 年		65	2	79	3	49	2	46	2	45	2
4 年		62	2	70	2	48	2	47	2	45	2
5 年		57	2	80	3	57	2	47	2	47	2
6 年		70	2	57	2	62	2	50	2	49	2
計		385	13	397	14	307	12	278	12	272	12

⑳ 吾妻小学校【吾妻学園】

※公務員宿舎跡地の大規模な開発が見込まれているが、開発計画や建設戸数等が未定のため、児童数推計には反映していない。

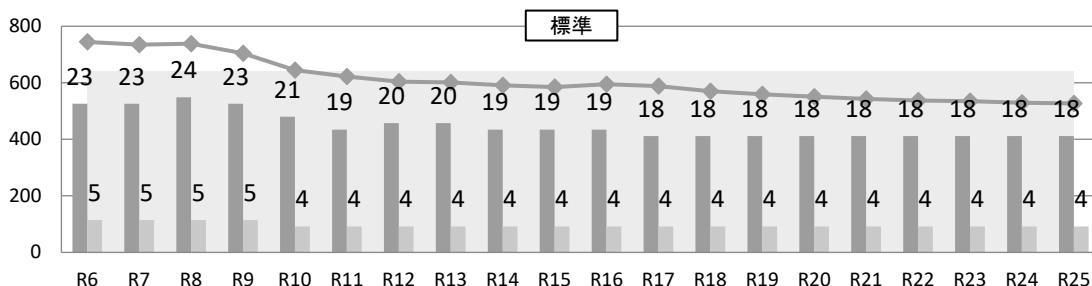
ア 基本情報

所在地	吾妻 2-16
指定学校変更制度	なし
中学校区	吾妻
隣接学区	大曾根・栗原・九重・竹園東・竹園西・手代木南・葛城・要・春日学園

R6 年度児童数	745
R6 年度学級数	普 23 特 5
公務員宿舎関連	吾妻 1 丁目～3 丁目
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数	28
R6 年度保有特別支援教室数	10
最大時使用教室数 (R8 年度)	普通 24 特支 5 特支教室 普通教室転用 0
不足教室数	—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	131	4	85	3	97	3	89	3	87	3
2 年	120	4	106	4	98	3	90	3	86	3
3 年	137	4	105	3	101	3	91	3	88	3
4 年	132	4	104	3	112	4	94	3	90	3
5 年	93	3	131	4	99	3	95	3	91	3
6 年	132	4	114	4	78	3	92	3	85	3
計	745	23	645	21	585	19	551	18	527	18

㉑ 荊崎第二小学校【荊崎学園】

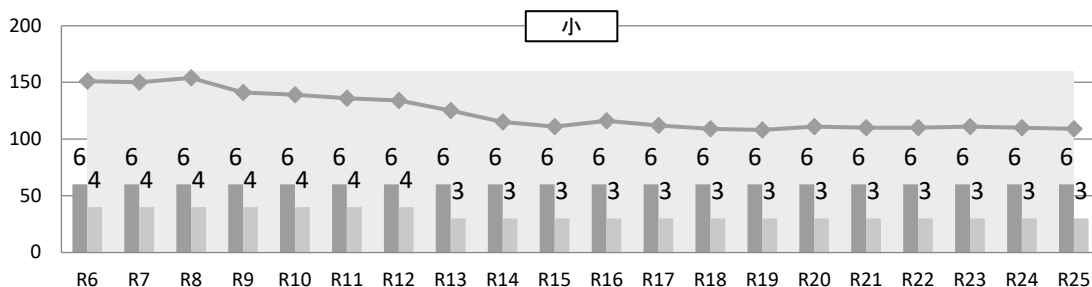
ア 基本情報

所在地	上岩崎 1076
指定学校変更制度	なし
中学校区	荊崎
隣接学区	荊崎第一・谷田部南

R6 年度児童数	151
R6 年度学級数	普 6 特 4
公務員宿舎関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数	16
R6 年度保有特別支援教室数	6
最大時使用教室数 (R7 年度)	普通 6 特支 4 特支教室 普通教室転用 0
不足教室数	—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	21	1	16	1	16	1	19	1	16	1
2 年	24	1	21	1	18	1	17	1	18	1
3 年	20	1	28	1	18	1	19	1	19	1
4 年	33	1	27	1	20	1	18	1	18	1
5 年	22	1	23	1	21	1	20	1	18	1
6 年	31	1	24	1	18	1	18	1	20	1
計	151	6	139	6	111	6	111	6	109	6

㊹ 荃崎第三小学校【荃崎学園】

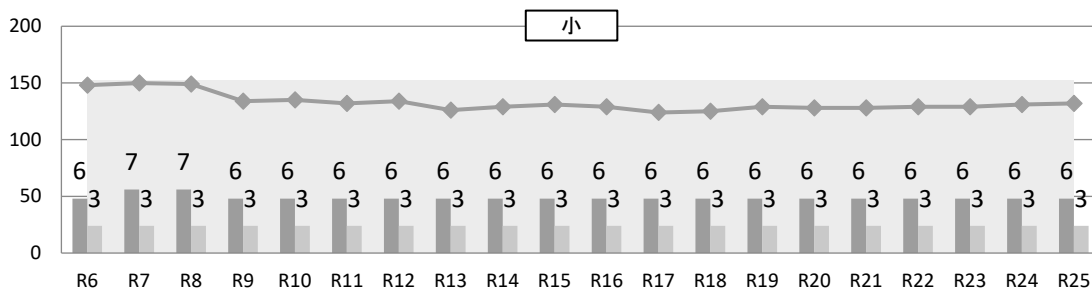
ア 基本情報

所在地	小荃 798-1
指定学校変更制度	なし
中学校区	荃崎
隣接学区	荃崎第一

R6 年度児童数	148
R6 年度学級数	普 6 特 3
公務員宿舎関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			19
R6 年度保有特別支援教室数			3
最大時使 用教室数 (R7 年度)	普通	7	
	特支	特支教室	3
		普通教室転用	0
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		17	1	21	1	21	1	21	1	20	1
2 年		25	1	20	1	22	1	20	1	21	1
3 年		21	1	21	1	18	1	20	1	21	1
4 年		36	1	25	1	20	1	22	1	23	1
5 年		23	1	19	1	25	1	21	1	23	1
6 年		26	1	29	1	25	1	24	1	24	1
計		148	6	135	6	131	6	128	6	132	6

㊺ 荃崎第一小学校【高崎学園】

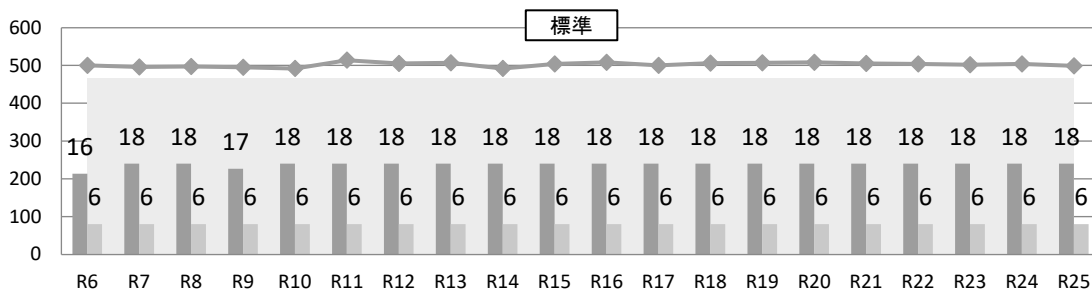
ア 基本情報

所在地	高崎 2290
指定学校変更制度	なし
中学校区	高崎
隣接学区	荃崎第二・荃崎第三・ 谷田部南・谷田部・小 野川

R6 年度児童数	500
R6 年度学級数	普 16 特 6
公務員宿舎関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			35
R6 年度保有特別支援教室数			3
最大時使 用教室数 (R7 年度)	普通	18	
	特支	特支教室	3
		普通教室転用	2
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		78	3	77	3	83	3	83	3	77	3
2 年		71	2	72	3	82	3	83	3	83	3
3 年		81	2	96	3	83	3	82	3	83	3
4 年		79	3	85	3	76	3	85	3	83	3
5 年		96	3	87	3	96	3	86	3	85	3
6 年		95	3	75	3	84	3	89	3	88	3
計		500	16	492	18	504	18	508	18	499	18

③① 研究学園小学校【虹色学園】

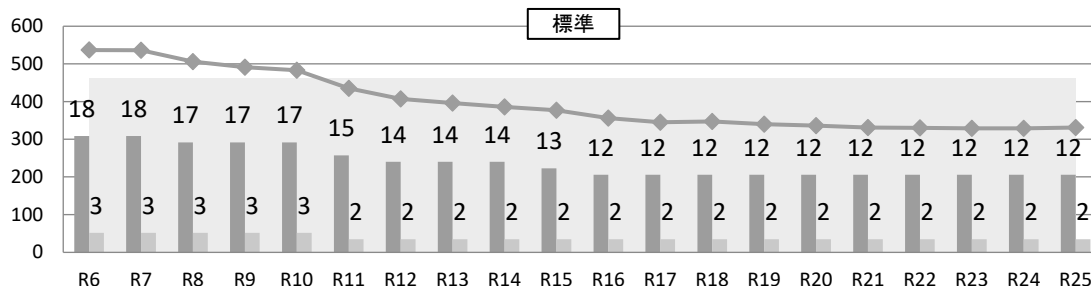
ア 基本情報

所在地	研究学園 2-26
指定学校変更制度	なし
中学校区	研究学園
隣接学区	沼崎・葛城・柳橋・島名・学園の森・春日学園

R6 年度児童数	537
R6 年度学級数	普 18 特 3
公務員宿舍関連	—
T X 関連	葛城地区（研究学園 4 丁目～5 丁目、学園南 1 丁目）

R6 年度最大保有普通教室数			27
R6 年度保有特別支援教室数			4
最大時使 用教室数 (R7 年度)	普通		18
	特支	特支教室	3
		普通教室転用	0
不足教室数		—	

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		81	3	75	3	56	2	51	2	53	2
2 年		110	4	69	2	59	2	53	2	54	2
3 年		87	3	68	2	60	2	56	2	54	2
4 年		86	3	72	3	56	2	56	2	56	2
5 年		98	3	86	3	66	2	59	2	57	2
6 年		75	2	113	4	80	3	61	2	57	2
計		537	18	483	17	377	13	336	12	331	12

③② 谷田部南小学校【翠輝学園】

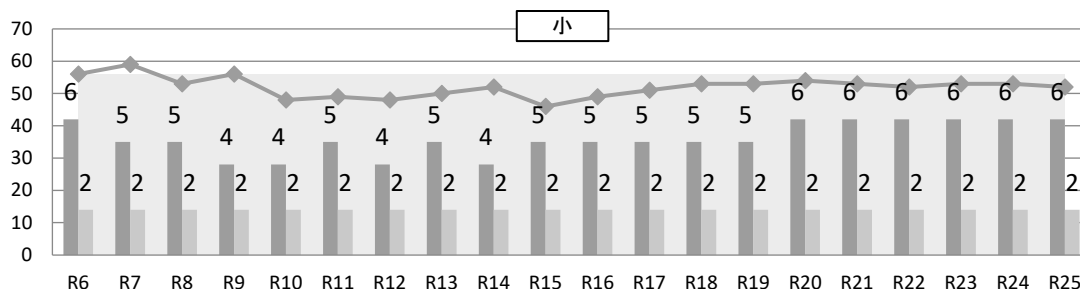
ア 基本情報

所在地	境田 191-1
指定学校変更制度	なし
中学校区	みどりの南
隣接学区	谷田部・荃崎第一・荃崎第二・みどりの南

R6 年度児童数	56
R6 年度学級数	普 6 特 2
公務員宿舍関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数			8
R6 年度保有特別支援教室数			3
最大時使 用教室数 (R20 年度)	普通		6
	特支	特支教室	2
		普通教室転用	0
不足教室数			—

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		7	1	6	1	8	1	9	1	8	1
2 年		6	1	13	1	9	1	9	1	9	1
3 年		14	1	7	1	9	1	9	1	9	1
4 年		9	1	7		7	1	9	1	8	1
5 年		13	1	8	1	7		9	1	9	1
6 年		7	1	7		6	1	9	1	9	1
計		56	6	48	4	46	5	54	6	52	6

③ みどりの南小学校【翠輝学園】

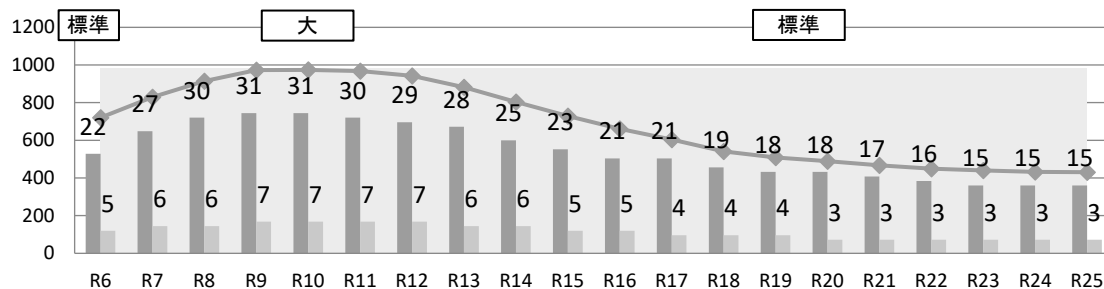
ア 基本情報

所在地	みどりの南 106-3
指定学校変更制度	谷田部南・みどりの学園
中学校区	みどりの南
隣接学区	谷田部・谷田部南・みどりの学園

R6 年度児童数	720
R6 年度学級数	普 22 特 5
公務員宿舍関連	—
T X 関連	萱丸地区（みどりの南、みどりの東）

R6 年度最大保有普通教室数			41
R6 年度保有特別支援教室数			5
最大時使 用教室数 (R9 年度)	普通	31	
	特支	特支教室	5
		普通教室転用	1
不足教室数		—	

イ 児童・学級数の推移グラフ及び表



学年	年度	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年		162	5	153	5	93	3	73	3	67	2
2 年		142	4	170	5	97	3	73	3	69	2
3 年		151	5	178	6	105	3	78	3	70	2
4 年		108	3	166	5	142	5	82	3	71	3
5 年		92	3	164	5	139	4	87	3	74	3
6 年		65	2	143	5	153	5	96	3	80	3
計		720	22	974	31	729	23	489	18	431	15

5. 義務教育学区の将来推計

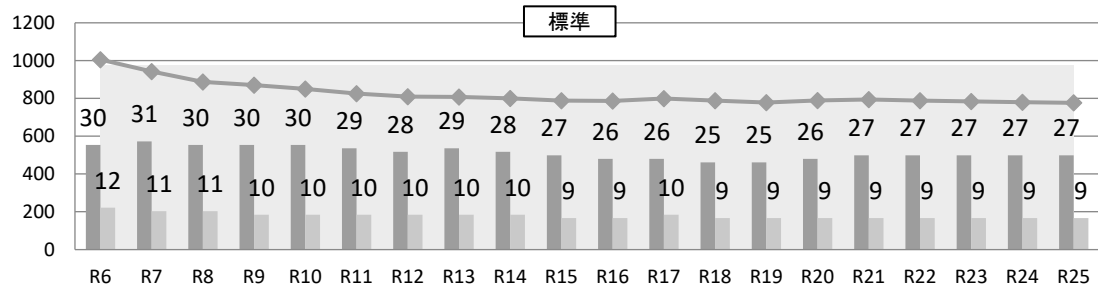
(1) 義務教育学校の推移グラフ及び表

① 春日学園義務教育学校【春日学園】

ア 基本情報

所在地	春日 2-47	R6 年度児童生徒数	1005	R6 年度最大保有普通教室数	53		
指定学校変更制度	吾妻・学園の森	R6 年度学級数	普 30 特 12	R6 年度保有特別支援教室数	11		
隣接学区（学園）	豊里学園・大穂学園・吾妻学園・光輝学園・虹色学園・学園の森	公務員宿舎関連	春日 1 丁目	最大時使	普通	31	
		T X 関連	葛城地区（研究学園 6 丁目、7 丁目、学園の森 3 丁目）	用教室数（R7 年度）	特支	特支教室	11
					普通教室転用		0
				不足教室数		－	

イ 生徒・学級数の推移グラフ及び表



年度 学年	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	92	3	99	3	92	3	90	3	87	3
2 年	112	3	110	4	95	3	90	3	89	3
3 年	101	3	83	3	96	3	94	3	92	3
4 年	96	3	91	3	86	3	97	3	93	3
5 年	111	3	106	4	83	3	98	3	96	3
6 年	129	4	119	4	109	4	100	3	97	3
7 年	112	3	81	3	88	3	77	3	73	3
8 年	120	4	77	3	66	2	76	3	75	3
9 年	132	4	84	3	73	3	67	2	75	3
計	1005	30	850	30	788	27	789	26	777	27

② 秀峰筑波義務教育学校【秀峰筑波】

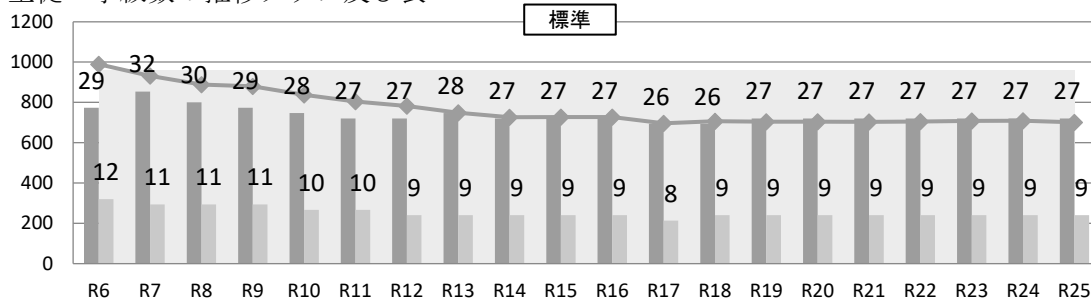
ア 基本情報

所在地	北条 5073
指定学校変更制度	なし
隣接学区（学園）	桜学園・大穂学園

R6 年度児童生徒数	989
R6 年度学級数	普 29 特 12
公務員宿舎関連	—
T X 関連	—

R6 年度最大保有普通教室数	36
R6 年度保有特別支援教室数	8
最大時使 用教室数 (R7 年度)	普通 32 特支 8 普通教室転用 2
不足教室数	—

イ 生徒・学級数の推移グラフ及び表



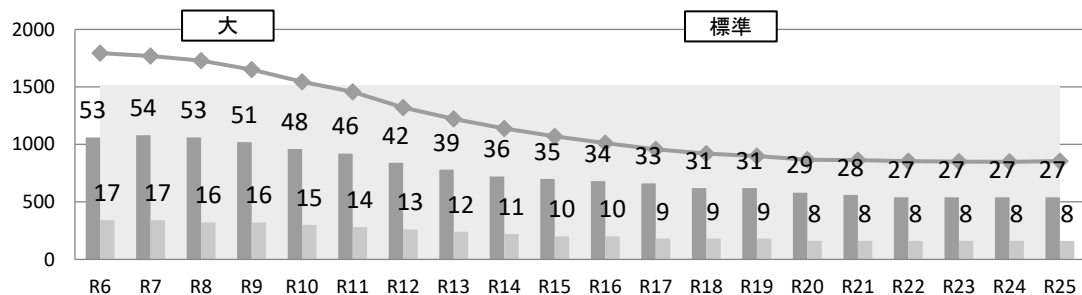
年度 学年	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	79	3	75	3	74	3	79	3	71	3
2 年	102	3	68	2	77	3	74	3	76	3
3 年	113	3	103	3	75	3	80	3	82	3
4 年	96	3	86	3	74	3	73	3	79	3
5 年	118	3	80	3	85	3	84	3	76	3
6 年	124	4	105	3	82	3	80	3	84	3
7 年	108	3	110	4	71	3	80	3	76	3
8 年	108	3	94	3	102	3	78	3	81	3
9 年	141	4	116	4	87	3	76	3	76	3
計	989	29	837	28	727	27	704	27	701	27

③ 学園の森義務教育学校【学園の森】

ア 基本情報

所在地	学園の森 2-15-1	R6 年度児童生徒数	1794	R6 年度最大保有普通教室数	76
指定学校変更制度	春日学園	R6 年度学級数	普 53 特 17	R6 年度保有特別支援教室数	6
隣接学区（学園）	豊里学園・大穂学園・春日学園・虹色学園	公務員宿舎関連	—	最大時使 用教室数 (R7 年度)	普通 54
		TX 関連	葛城地区（研究学園 4 丁目～5 丁目、学園の森 1 丁目～3 丁目）	特支	特支教室 6
				普通教室転用	6
				不足教室数	—

イ 生徒・学級数の推移グラフ及び表



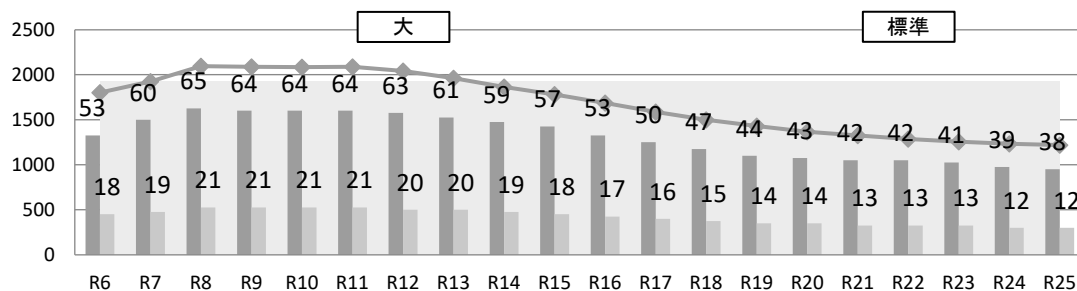
年度 学年	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	183	6	123	4	101	3	93	3	100	3
2 年	202	6	149	5	106	4	96	3	101	3
3 年	229	7	164	5	113	4	101	3	102	3
4 年	262	7	182	6	105	3	103	3	103	3
5 年	236	7	186	6	147	5	108	4	105	3
6 年	232	7	202	6	126	4	110	4	104	3
7 年	168	5	171	5	115	4	85	3	79	3
8 年	136	4	194	6	123	4	89	3	80	3
9 年	146	4	173	5	134	4	81	3	80	3
計	1794	53	1544	48	1070	35	866	29	854	27

④ みどりの学園義務教育学校【みどりの学園】

ア 基本情報

所在地	みどりの中央 12-1	R6 年度児童生徒数	1802	R6 年度最大保有普通教室数	77
指定学校変更制度	なし	R6 年度学級数	普 53 特 18	R6 年度保有特別支援教室数	6
隣接学区（学園）	輝翔学園・高山学園・翠輝学園	公務員宿舍関連	—	最大時使 用教室数 (R8 年度)	普通 65
		T X 関連	萱丸地区（みどりの 1 丁目、2 丁目、中央）	特支	特支教室 6
				普通教室転用	8
				不足教室数	—

イ 生徒・学級数の推移グラフ及び表



年度 学年	R6 年度		R10 年度		R15 年度		R20 年度		R25 年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	246	7	215	7	161	5	131	4	129	4
2 年	261	8	235	7	167	5	136	4	132	4
3 年	261	8	257	8	180	6	143	5	134	4
4 年	219	6	259	8	183	6	151	5	138	4
5 年	198	6	252	8	212	7	159	5	141	5
6 年	207	6	268	8	219	7	170	5	145	5
7 年	169	5	231	7	211	7	154	5	130	4
8 年	115	3	194	6	225	7	162	5	133	4
9 年	126	4	174	5	223	7	161	5	137	4
計	1802	53	2085	64	1781	57	1367	43	1219	38